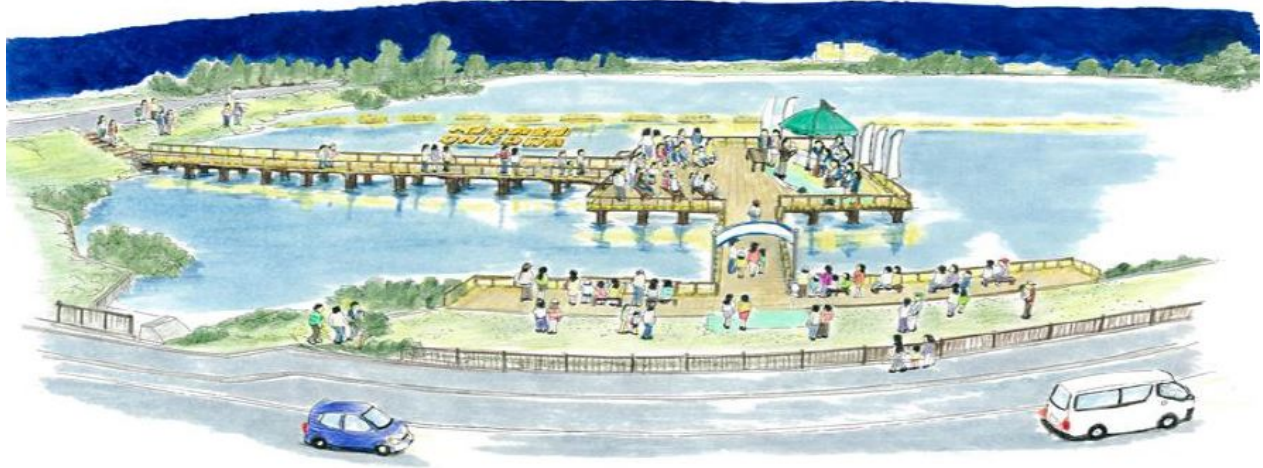


平成29年度

大川活用プロジェクト活動報告書

～美崎大川を舞台にもう一つの地方創生を考える～



美崎自治会、立命館大学学生活動団体 haconiwa、守山市
京都大学（グローバル生存基盤展開ユニット・東南アジア地域研究研究所、
地（知）の拠点事業：KYOTO 未来創造拠点整備事業—社会変革期を担う人
材育成、東南アジア地域研究研究所国際共同研究拠点事業「東南アジア大陸
部稲作圏における農業近代化以降における技術展開の国際比較」）



目次

	ページ
I. 巻頭言	1
大川活用プロジェクト世話人 伊藤 潔	
II. 活動報告	2
1. 「夏休み大川自由研究室」& 「アジア青少年等交流事業記念植樹」 大川活用プロジェクト	2
2. 大川活用プロジェクト支援団体hoconiwa活動成果 立命館大学学生団体 haconiwa	10
3. 「大川水質浄化事業について」 守山市役所環境政策課	14
III. 総合討論	27
1. 「美崎・大川を舞台に次世代型地方創生にチャレンジ」 —haconiwa からの提案—	27
2. 総合討論議事録	38
巻末資料	43
1. 守山市環境学習都市宣言	44
2. 夏休み大川自由研究室	45
3. 夏休み大川自由研究室レポート	56
4. 東南アジア研究生との交流事業	61
5. 「大川親水デッキ」完成記念イベント	65
6. 「大川親水デッキ」完成記念イベント実施報告（共催事業）	66
7. 「大川親水デッキ」について	67
8. 「冬休み自由研究室」・学習支援活動	68
9. 「美崎寄り合い」開催記録	69
10. 第7回大川フォーラム プログラム	70
11. 大川だより（第8号）	71

巻頭言

大川活用プロジェクトのこれから

大川活用プロジェクトには幾つもの目的や夢があります。大川の水質をはじめとする環境の改善はもとよりですが、自治会の皆さんに大川をきっかけに美崎の将来を語り合っていただくことを期待したこと、大学や高校、守山市などと連携しながら自治会の役割を再評価すること、自然や農業などの地域資源を子ども達の育ちに活かすとともにその魅力を発信することでこの地に誇りを持つことを願ったことなどです。

平成23年度からスタートした大川活用プロジェクトも平成29年度で8年を経過しました。当初の目的や夢をどう評価するか、また達成の程度はどうかはこれからも大いに議論すべきところですが、ここにきてそれらにも関わる新しい展開がありました。立命館大学の学生団体 **haconiwa** の皆さんの参画です。

haconiwa は、大川で水環境を学んだ立命館守山高校の生徒の皆さんが、進学した立命館大学で「大川応援隊」として結成した学生団体です。

大川では、今年度、河口部に親水性デッキが整備されたことを記念しての「竹灯籠点灯イベント」や、デッキ上での「冬の星空観察会」など新たな取り組みを実施しましたが、これらは **haconiwa** の皆さんの企画と尽力によるものです。加えて、小学校の夏休みや冬休みの期間には、民生委員による「子ども食堂」と連携しながら子ども達の学習を支援する取り組みも始まりました。

大川活用プロジェクトはこれまで大学、高校、行政、そして自治会が連携しながら地域の課題に取り組むというかつてない手法で注目されてきましたが、8年を経過する中でその手法の点検と再評価が必要となりつつあります。一方で、大学生の皆さんの参画という新しい展開が生まれてきました。地域資源を活かしながら子ども達の育ちを応援する若い皆さんの発想と活力はプロジェクトの大きな力となることはもとより、これからの社会づくりの新しい価値を創造するように思います。美崎の地で、今、新しい潮流が起こっているのかもしれない。

大川活用プロジェクトがこれからも地域にとって、子ども達にとって新しい歴史を刻めることを願っています。

平成30年3月

大川活用プロジェクト 世話人 伊藤潔

平成29年度大川フォーラム

平成29年度事業報告

「夏休み大川自由研究室」 &

「アジア青少年等交流事業記念植樹」



大川活用プロジェクト

平成29年度 夏休み大川自由研究室の開催

平成25年から始まった、「夏休み大川自由研究室」も今年で5回目となりました。8月2日今年も暑い日でしたが、約80名の子ども達が参加してくれました。夏休みの1日を例年と同じように、琵琶湖へ、大川へ、野菜畑へと3グループに分かれて体験学習、また、海外の文化に触れる座学など沢山のプログラムをみんなで楽しみました。

当日のプログラム (AM8:00~PM4:00)

- 参加者受付……………名札・手元資料・メモ用紙等配布
- オープニングセレモニー……………当日の注意事項・予備知識・予定を聞く
- 体験学習……………琵琶湖・大川・野菜畑の3グループに分かれ出発
- 遊び体験……………竹のおもちゃ等で遊び
- 昼食……………毎年大人気の流しソーメン他を楽しむ
- 座学……………海外の文化を学び、触れる
- まとめと発表……………グループ毎に今日のまとめと代表者の発表

受付・オープニングセレモニー



順番に名札や今日の資料を受け取ります



受け取った資料や缶バッチ



自治会館横に全員集合



今日の予定や注意事項を聞きます！



体験学習・琵琶湖グループ 5・6年生



漁船にのって出発！！



湖面をはしる



いろいろな仕掛けを揚げる



5

体験学習・大川グループ 3・4年生



ライフジャケットをつけ屋形船で出発



途中仕掛けを揚げながら



水上テッキに到着



体験学習の説明



テッキからプランクトンを採取



顕微鏡でプランクトンの観察

6

体験学習・野菜畑チーム 園児&1・2年生



自治会館から歩いて畑へ



さあ！みんなで野菜の収穫



7

竹のオモちゃで遊ぶ



先ず水鉄砲を作る



さあ！みんなで遊ぼう



今日の大川や琵琶湖で獲った魚の観察

8

楽しい昼食



先ずは麺つゆと薬味を



待ちに待った流しソーメンの始まり！



園児等は部屋で卓上流しソーメン



他にも湖魚の天ぷら・かやく飯もあるよ

座学・フーダンの文化を学ぶ



フーダンの生活の様子を聞く



挨拶を教わる



ダンスを教わる



フーダンの民族衣装を着る



焼きそばを食べ

研究室のまとめと発表

10年後の美崎を絵や文で表現してください



みんなで今日のまとめ



家がたくさんあるみさき、川があって、お店もたくさんある。木も花もはえている、畑もたくさんある。生き物もたくさんいる、人もたくさんいる、公園もある。



ブルーギル・ブラックバスが大川やびわこにいらなくなってほしいです。大川の水が茶色じゃなくとうめいになってほしい、それにゴミがない川になってほしい。



びわこは、少しはきれいになっているとおもう、10年後には、ゴミも減ってキレイなびわこになっていると思う。漁港にはたくさんの魚がつかまえている！！

夏休み大川自由研究室を開催して

- 「夏休み大川自由研究室」も今回で5回目となりました。
- 今回は約80名の参加者があり、特に3・4年生に多くの参加者がありました。
- 今年もそれぞれの体験学習で琵琶湖・大川・その周辺の自然を十分に楽しんでくれた事と思います。
- いつもの事ながら、昼食の流しソーメンの人気でしたが、湖魚料理もみんな美味しかった様でした。
- 今回の座学は「フータンの文化を学ぶ」でしたが、挨拶の仕方、ダンスを踊り、現地のかないスパイシーな焼きそばもしっかり食べていました
- 体験学習・流しソーメン・海外の文化等どれも子ども達は本当に楽しく学び、今回も夏休みの一日を大切な思い出となったと思います。

アジア青少年等交流事業記念植樹

この事業の目的

アジア各国の農林専攻の研究者・学生を招き我が国の環境保全や地域開発の紹介を目的としている。
この事業には、友好を深めるために地域の子も達等との植林活動がプログラムにふくまれています。
今回、美崎と今浜の自治会では子ども会と連携してこの取り組みに参画いたしました。

今回のプログラム

フータンから……10名
ラオスから……6名
ミャンマーから……16名
学生・社会人等32名

11月2日……レセプション
11月3日……自治会館で子ども達と合流
美崎・今浜に分かれ植樹
植樹後合流し地域視察
昼食後次の目的地へ

13

レセプション

琵琶湖プラザホテルで歓迎会が行われました。



ラオスの皆さん



ブーダンの皆さん



ミャンマーの皆さん



立食パーティーで交流



各国のカルチャーダンス・歌を披露

14

記念植樹活動

H28/12/18に竹を伐採し作った新川の広場に植樹



みんなと一緒に新川へ



広場で今日の説明



一斉に植樹作業開始



子ども達も一緒に



最後に記念碑の除幕



子ども会と自治会に記念品

アジア青少年等交流事業記念植樹を終えて

- 今回の事業での一行は11/1～9の日程での来日でした
- 最初の交流地が守山市でした
- 前夜のしセフションでは、各国の歌やダンスを披露され最後は江州音頭でテーブルを囲んでみんなで踊り大変盛り上がりしました
- 植樹は美崎の子ども達(約30名)と今浜と分かれた美崎組16名で栗の苗木を16本植えました
- 子ども達は言葉はまるで関係なく、自然に楽しくコミュニケーションをとり交流しており感心させられました

平成29年度「夏休み大川自由研究室」 &
「アジア青少年等交流事業記念植樹」のご報告

ご清聴ありがとうございました



平成30年2月3日

1

第7回 大川フォーラム

活動成果発表

大川活用プロジェクト支援団体haconiwa



大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa です。今回は私達が今年度当プロジェクトにて行ってきた活動についてご紹介させていただきます。

2

自己紹介

大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa



立命館大学生が主体となって活動を行うプロジェクト支援団体。持続可能な地域振興のために、地域と大川をつなぐ企画を提供する。

立命館大学 生命科学部 2年生 立命館大学 生命科学部 1年生 立命館大学 生命科学部 1年生

戸簾 隼人

村松 翔摩

正木 泰斗



まず、私達についてご紹介させていただきます。立命館大学より参りました、大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa ともうします。今回は私、戸簾隼人、村松翔摩、正木泰斗がお話させていただきます。

3



当団体は、Creative など地域派と題しまして、学生自身が横の広がりや若者らしい考え方を活かした、多様な価値観のもと、企画立案を行いプロジェクトを支援する活動を行っております。

4

haconiwa創設のきっかけ

高校生時代



科学的な研究

- 水環境の改善・維持に重心を置く
- 外部からの限られた関わり

大学入学後



地域参加

- 地域を結び付ける存在として
- 内部から密な関係の構築

当団体は高校生時代より、当プロジェクトに参加しておりその頃はSci-Theh部として、水環境の改善維持を行っていましたが、大学生になってからは地域の寄り合いなどに入り込むことによって、寄り密に関係を作り、活動を行って来ました。

5

2017年度行った活動内容

- 竹灯籠祭り ←
- 夏の自由研究室
- SustainableWeek 外来魚を喰らえ
- びわ博ミーティング参加
- 草津市主催「みなくさまつり」SDGsブースに参加
- 寺子屋(学習支援・環境学習) ←
- 「エコプロ2017」に参加団体として参加
- 冬の自由研究室 ←

本年度、当団体は大川を活かした活動はもちろんのこと、立命館大学内での活動や、琵琶湖博物館での活動など外部での活動もさまざまに行っていました。その中でも今回はこの中でも3つの企画についてご紹介させていただきます。

6

2017年度行った活動内容

- 竹灯籠祭り
- 寺子屋(学習支援・環境学習)
- 冬の自由研究室

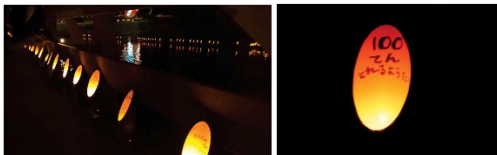


まずは竹灯籠まつり、そして学習支援、最後に冬の自由研究室についてご紹介させていただきます。

7

活動① 竹灯籠祭り (2017年4月22日)

- 大川上のウッドデッキ完成に併せて周辺の竹林を活かして開催
- 300名以上の方々が来場。イベントとしての持続も検討している。



ウッドデッキの灯籠
当日は約300個の灯籠が川に浮かべられました

灯籠に近距離の高齢者や子どもに絵や願い事を描いてもらう

竹灯籠祭りは、大川のウッドデッキ竣工に合わせて実施した企画です。当企画で用いた灯籠は大川周辺に自生している放置竹林の竹を用いました。

この企画には総計300名以上の方々が来場するなど、非常に集客性の高い物となっており、来年度以降も実施できないかと検討中です。

8

活動① 竹灯籠祭り (2017年4月22日)



そして、当企画は京都新聞や毎日新聞など、複数のメディアで取り上げられるなど注目度の高い取り組みでした。

9

活動② 寺子屋(学習支援・環境学習)

- 夏休みの宿題を支援
- 絵画や読書感想文のサポートも
- 昼食は民生委員の協力でカレーを提供



3日間で、のべ40人の小中学生が参加しました



みさき公園の協力の下、自然環境について講演していただきました

次に寺子屋、学習支援についてです。学習支援といっても子供に勉強を強制させるわけではなく、勉強する場を提供して、自主的に勉強できるような環境をつくることを行っています。内容としては絵画や読書感想文といった、家にいるとなかなか手の付けられないような課題や、親御さんのサポートが一般的になってしまう課題のサポートを行い、子供たちにとって充実した時間を過ごしていました。また、美崎の環境についてもっと関心を持ってもらうため、みさき公園の館長さんに来ていただき、自然環境について講演していただくなど、学校の勉強のみを行うのではなく、きちんと美崎の特徴を生かした活動も同時に行っています。

10

活動② 寺子屋(学習支援・環境学習)

学習風景の様子

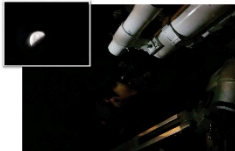


身近な自然についての講演だったので、子供たちも興味津々で講演を聞いていました。昼食には民生委員さんによる子ども食堂が行われ、ここでも地域の人と子供たちのつながりがより深まるよい機会となりました。夏に3日間行われた寺子屋はのべ40人の小中学生が参加しました。このような地域と子供と大学生をつなぐような機会はなかなかないと思うので今年も継続する予定です。

11

活動③ 冬の自由研究室 (2017年12月26日)

- 大川上のウッドデッキを利用した
星空観察会
- 琵琶湖マリオットホテルとの協同による
地域貢献も達成



立命館大学の天文サークルと協同しウッドデッキからの
星空観察会を実施した



琵琶湖マリオットホテルの球室を利用したプラネ
タリウム鑑賞

最後にご紹介するのは、冬休み大川自由
研究室です。当企画は、本年度初めて開
催した企画となっております。

企画を開催するにあたって、琵琶湖マリ
オットホテルさんとの共同によるプラネ
タリウムの鑑賞や、立命館大学の天文学
サークルの協力の下での星空観察会を行
いました。

12

活動③ 冬の自由研究室 (2017年12月26日)

- 書道、冬休みの宿題、かるた作りと遊び
の場の提供とお手伝い
- 立命館大学天文サークル草津天文研
究会による星の解説



自由な冬休みの宿題を取
り掛けた子どもたちの様子

楽しそうにかるたを作るこ
どもたち

立命館大学天文サークルの
草津天文研究会による星の
解説の様子

また、昼には書道や冬休みの宿題、かる
たなどの正月や年末に行う宿題や遊びを
提供し、子どもたちの交流の場を確保し
ました。

13

その他の活動



これまで上げた企画以外にも、当団体で
は琵琶湖・大川に存在する外来魚の駆除
方法の啓発活動や、立命館大学内外での
プロジェクトの広報活動、大学生同士の
横のつながりを活かした活動援助など
を行っています。

14

大川活用プロジェクト支援団体haconiwa

Twitter : @haco2wa_bkc
 Facebook・HP : “大川活用プロジェクト”で検索
 Email : ohkawa8528@gmail.com



守山市準用河川大川 水質浄化業務について

株式会社ウイルステージ

目次

守山準用河川大川水質浄化事業の実施状況

- ・ 事業実施状況と弊社の水質浄化のメカニズムのおさらい

水質浄化の結果と検証

- ・ 水質検査結果及び改善での気づき

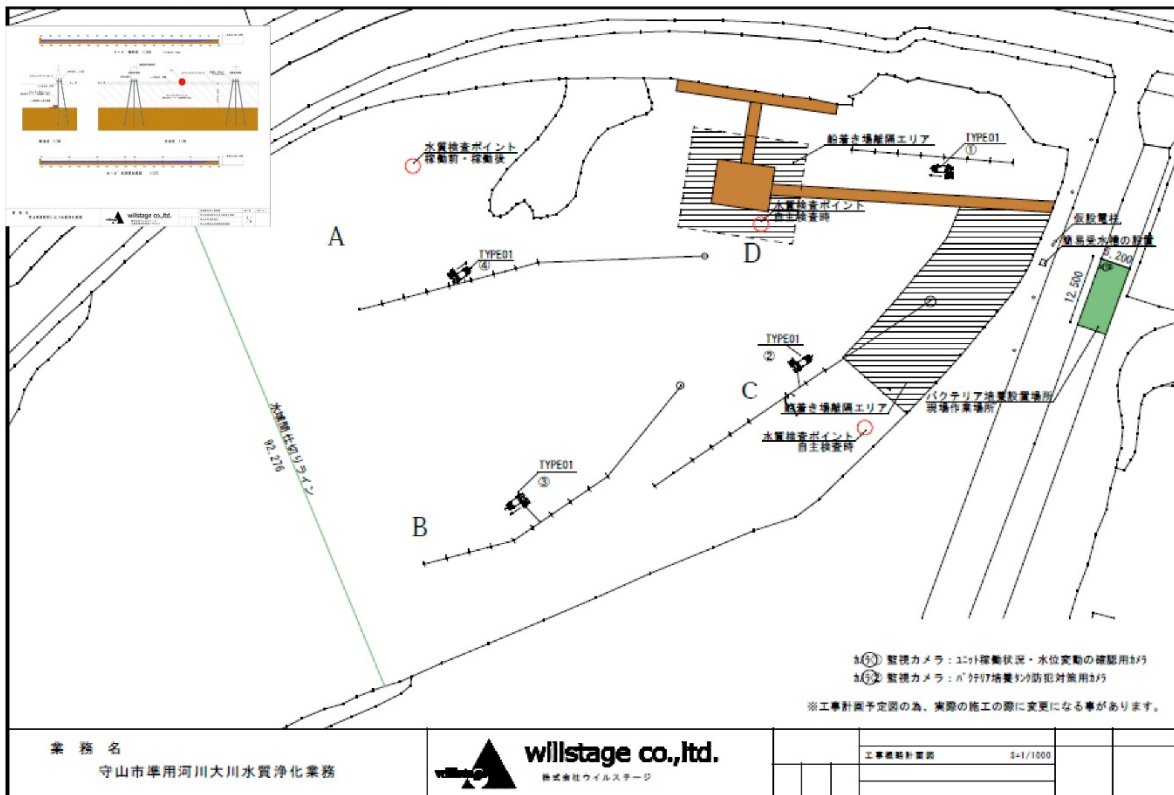
ウイルステージ水質事業今年度の取り組み紹介

- ・ 環境省ETV実証実験 舞鶴市円楽寺の結果紹介

守山準用河川大川取り組み写真

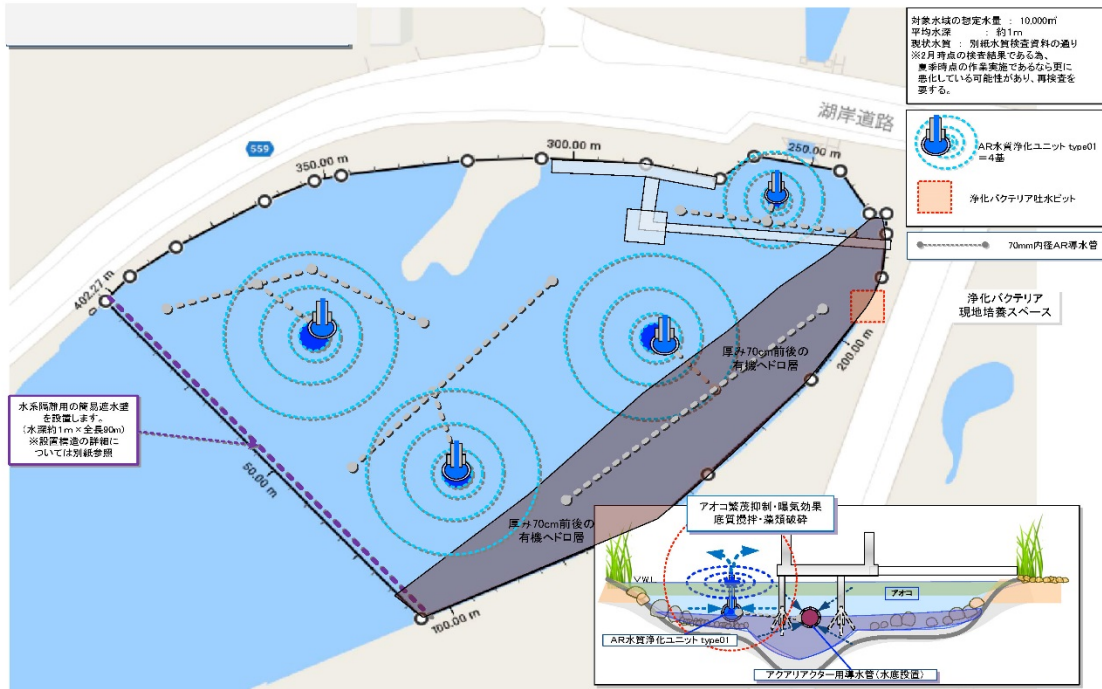
- ・ 平成29年3月18日 守山大川臨場学習風景

守山準用河川大川施工図面



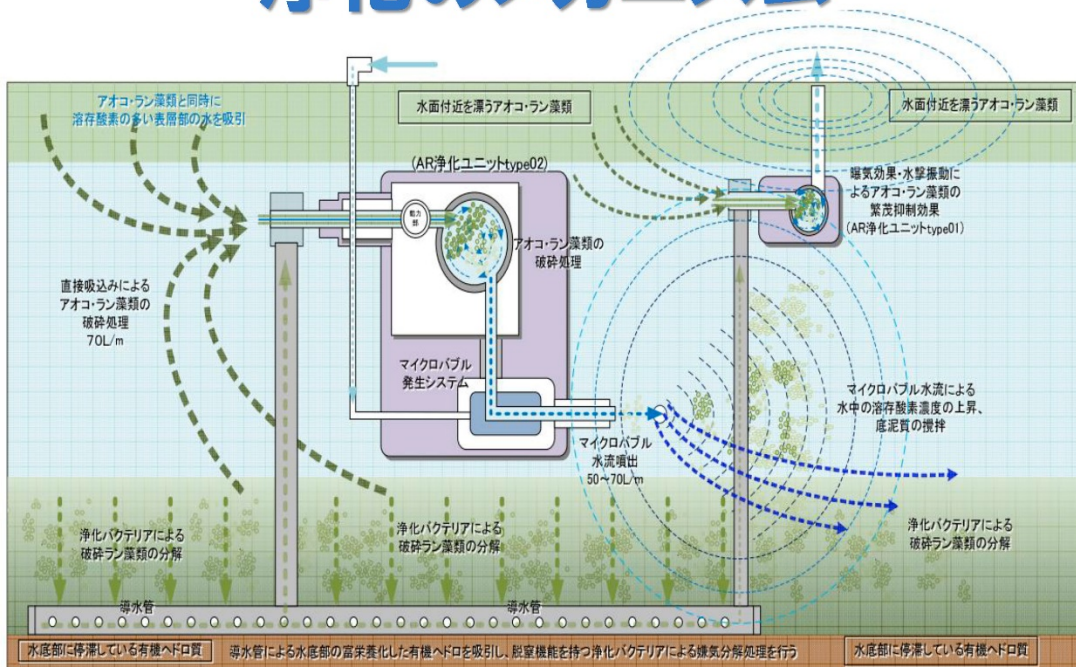
守山市準用河川大川水質浄化現況図

4



浄化のメカニズム

5



浄化作業の流れ

① 浄化バクテリアの環境再整備【1】

- ・浄化ユニットシステムO1、O2の設置・稼働
- ・⇒水系内、特に水底部の溶存酸素の上昇（マイクロバブルによる曝気）＝浄化ユニットO1、O2
- ・⇒水流による底泥質の拡散（浄化ユニットからの水流による）＝浄化ユニットO1
- ・⇒浄化ユニットによるラン藻類の破碎 ⇒浄化バクテリアによる分解促進 ＝浄化ユニットO1、O2

② 浄化バクテリアの環境再整備【2】

- ・浄化バクテリアtypeO2、typeO3の投入
- ・⇒浄化バクテリアの生物的凝集沈殿効果（ポリグルタミン酸）による透明度の回復
- ・⇒水系内の制菌効果向上

③ 嫌気発酵状態の底泥質の改善

- ・浄化バクテリアtypeO1の投入
- ・⇒嫌気発酵状態におけるメタンガス、硫化水素等の除去を行う。

④ 新規に発生するアオコ・ラン藻類の繁茂抑制

- ・浄化ユニットO1の稼働（発生する水撃振動（注1）による繁茂抑制効果）
- ・（注1）水撃振動：水を一定以上の塊として、水面に落下させた場合に生じる衝撃による振動。

⑤ 浄化ユニットによる既存アオコ・ラン藻類の破碎

- ・浄化ユニットO1（1台当たり毎分約50Lの処理可）、O2の稼働（1台当たり毎分約70Lの処理可）。

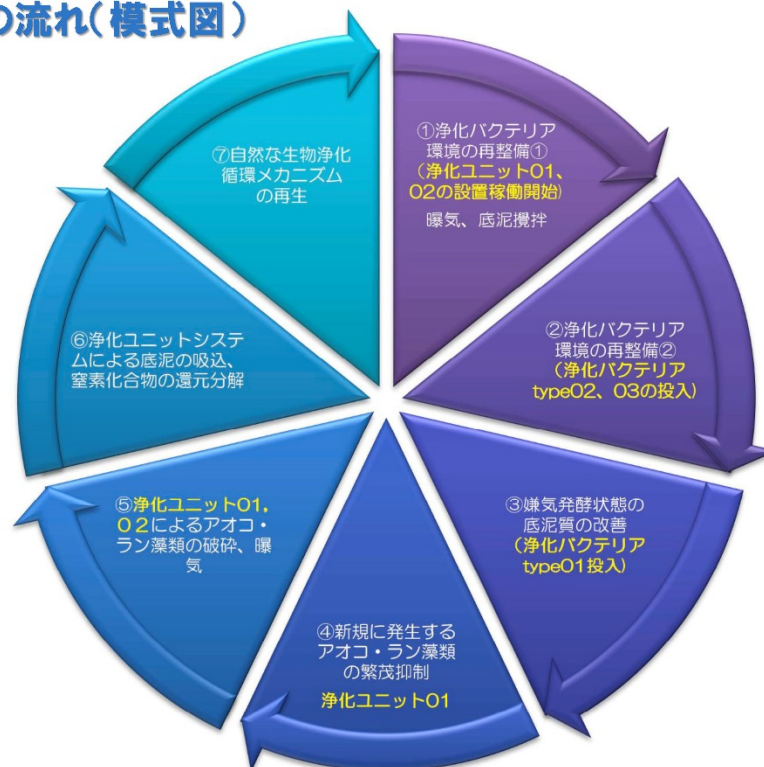
⑥ 浄化ユニットシステムによる窒素化合物の還元分解

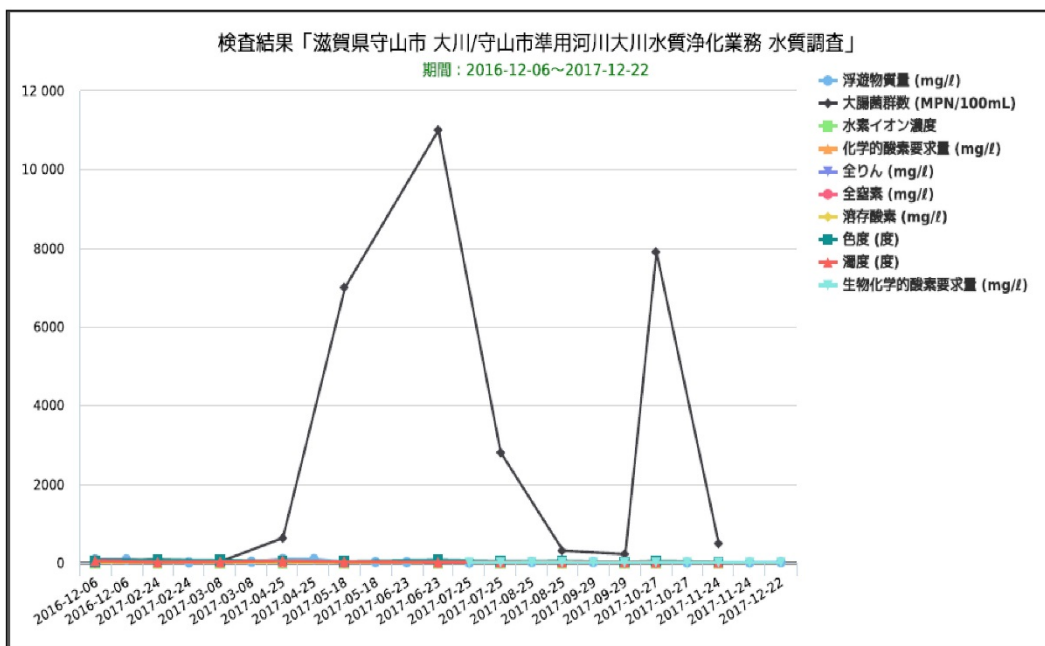
- ・水系内で脱窒還元処理を行うゾーンを作り出す浄化システムの稼働と浄化バクテリアの作用により実施。

⑦ 自然な生物浄化循環メカニズムの再生

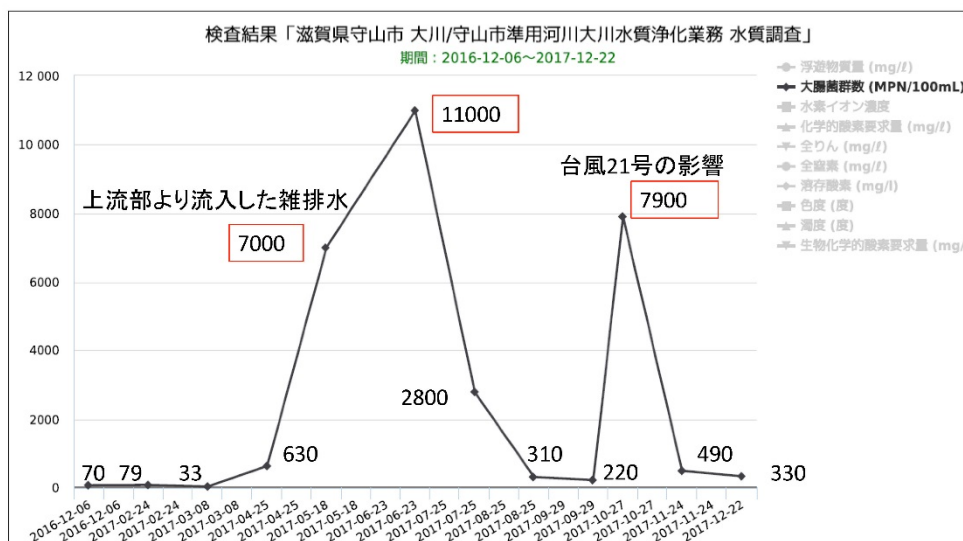
- ・浄化ユニットの連続運転と、浄化バクテリアtypeO1の定期投入により、水系の状況改善を図り、
- ・浄化バクテリアが活性化した状況を維持することで、水系内の自然な浄化メカニズムを再稼働させます。

浄化作業の流れ(模式図)



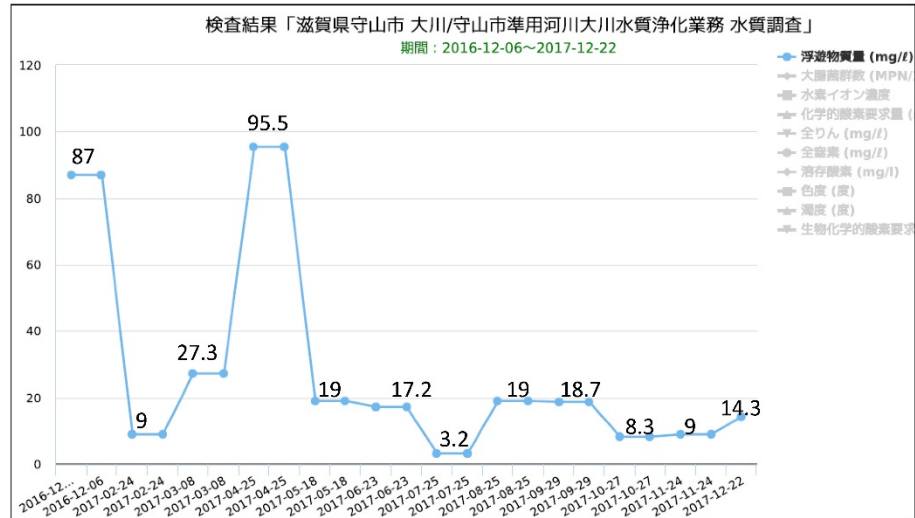


守山市準用河川大川水質調査 大腸菌群数グラフ



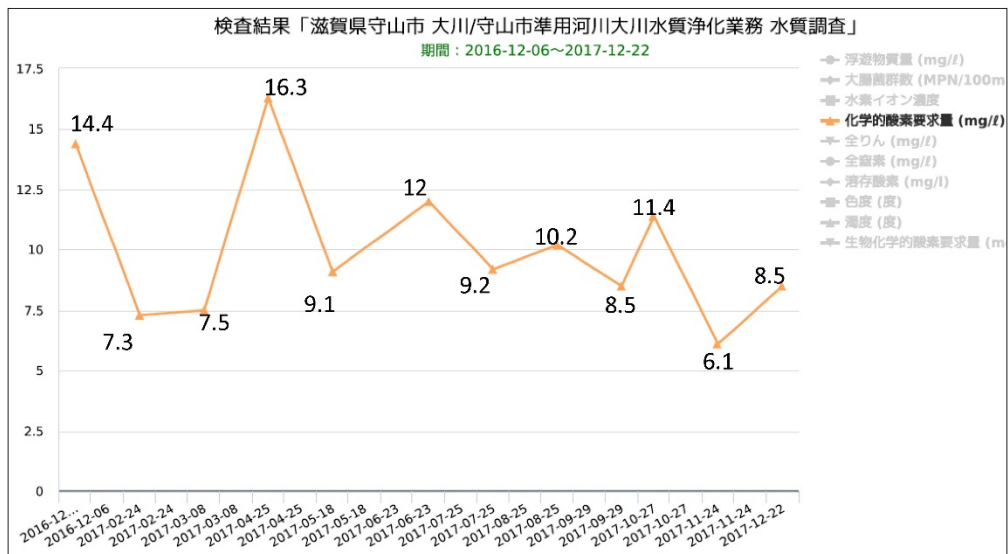
守山市準用河川大川水質調査 浮遊物質グラフ

11



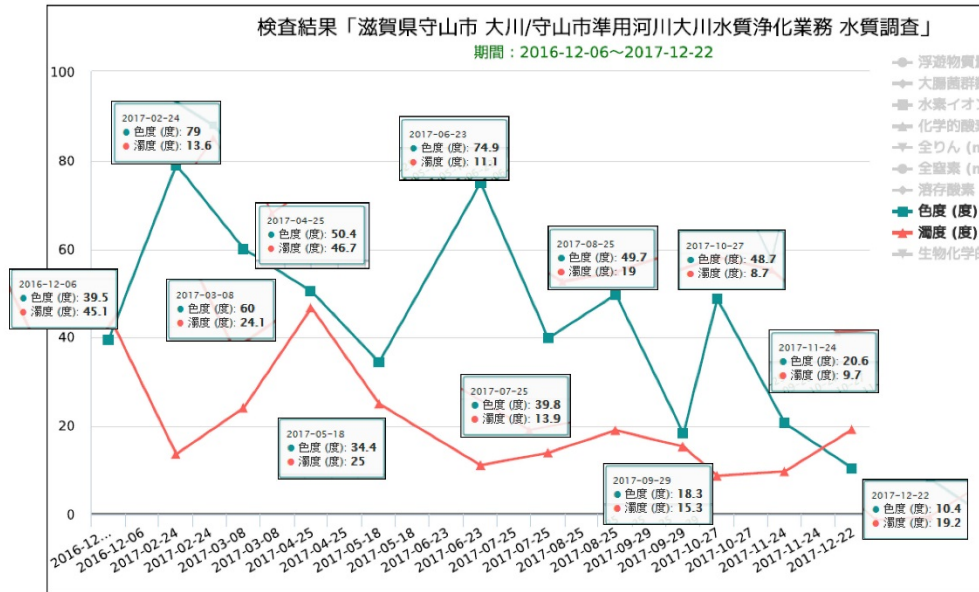
守山市準用河川大川水質調査 化学的酸素要求量グラフ

12



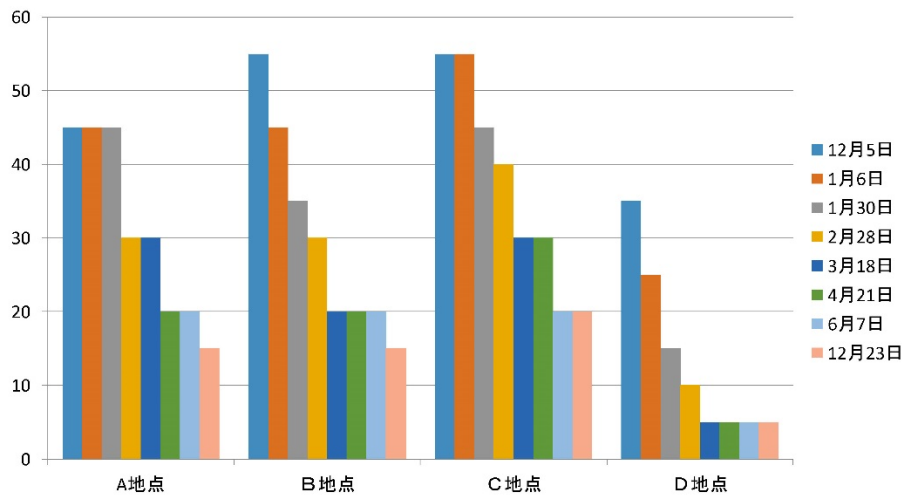
守山市準用河川大川水質調査 色度・濁度グラフ

13

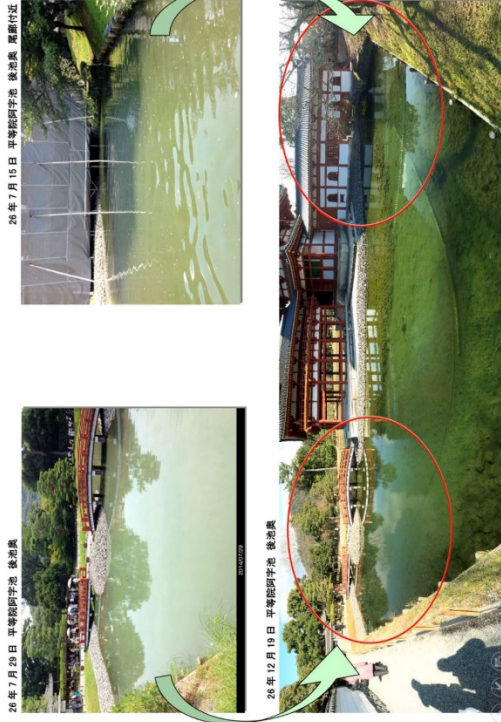


守山市準用河川大川底泥厚み記録

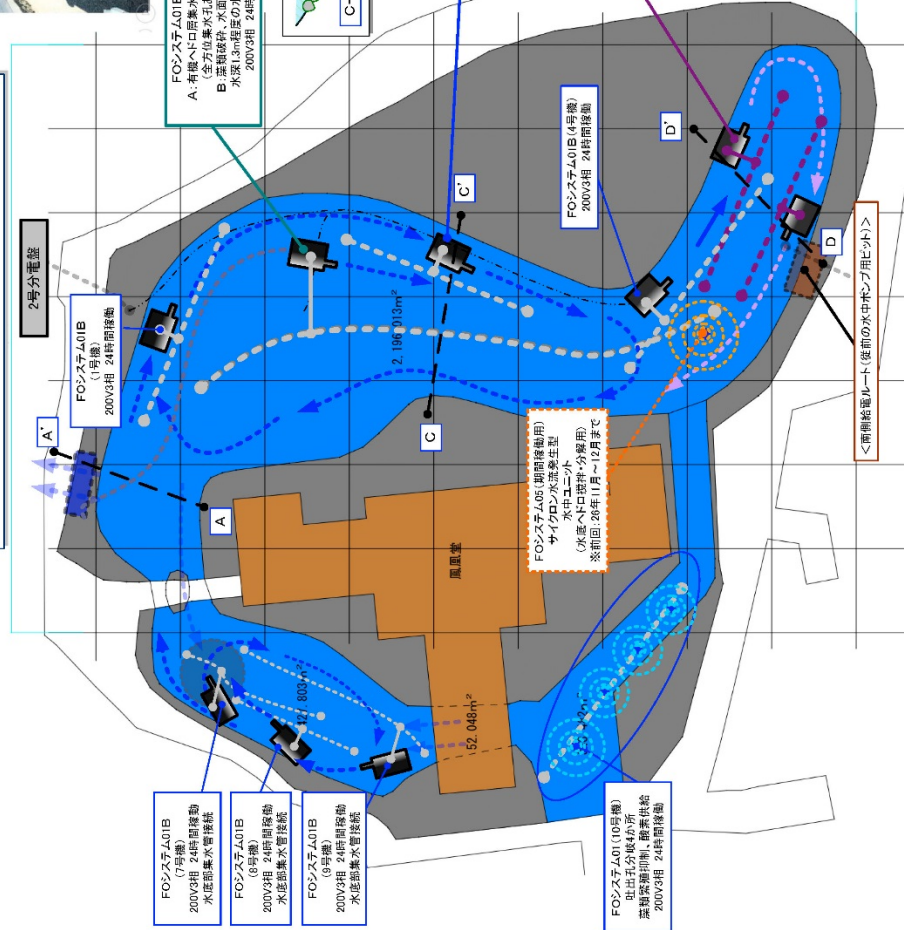
14



弊社事例① 平等院 阿字池(京都府宇治市)

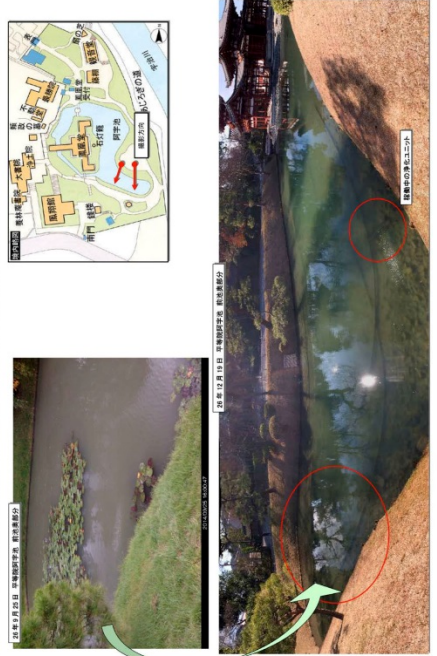


宇治市 平等院 阿字池全体水質改善工事 施工概略配置図



平等院阿字池(前池左側)の変化

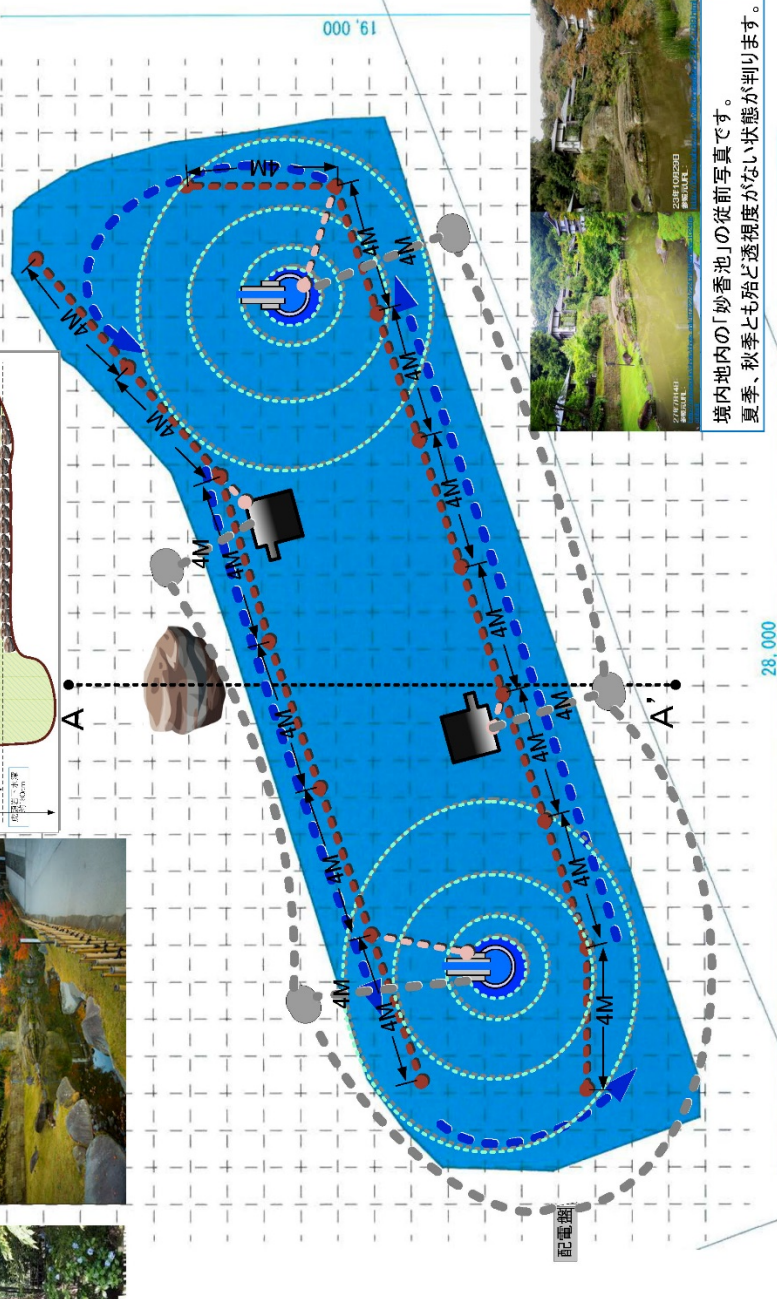
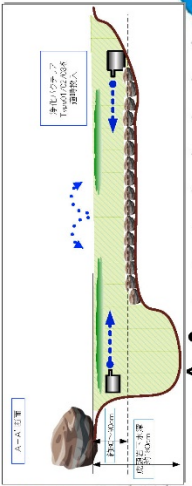
※後池より遅れて26年10月から作業着手しており
27年5月頃の浄化ユニット稼働期間1カ月の後、再度浄化作業中



弊社事例② 円覚寺 妙香池 (神奈川県鎌倉市)

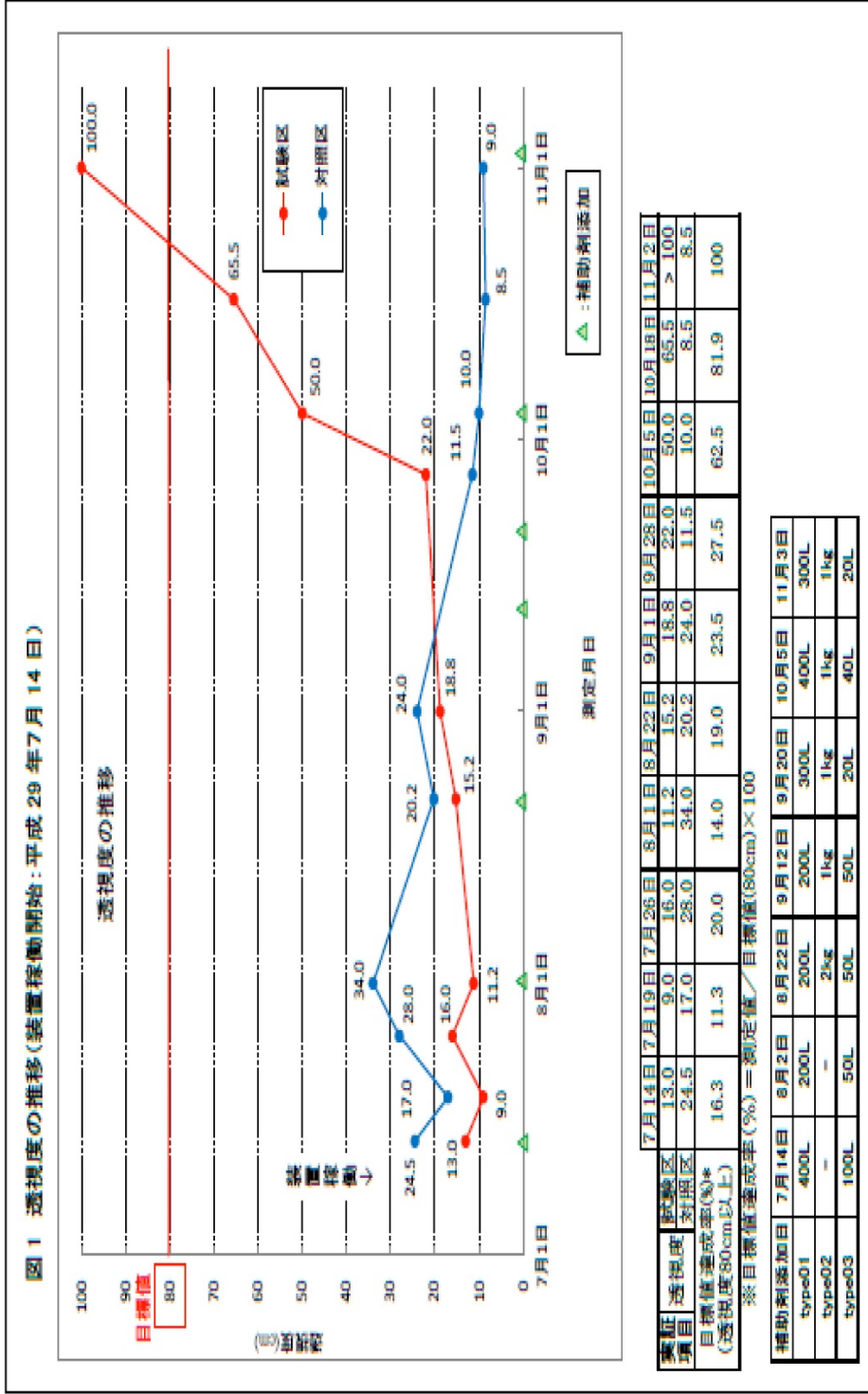


※モニター用WEBカメラの画像です



境内地内の「妙香池」の従前写真です。
夏季、秋季とも殆ど透視度がない状態が判ります。

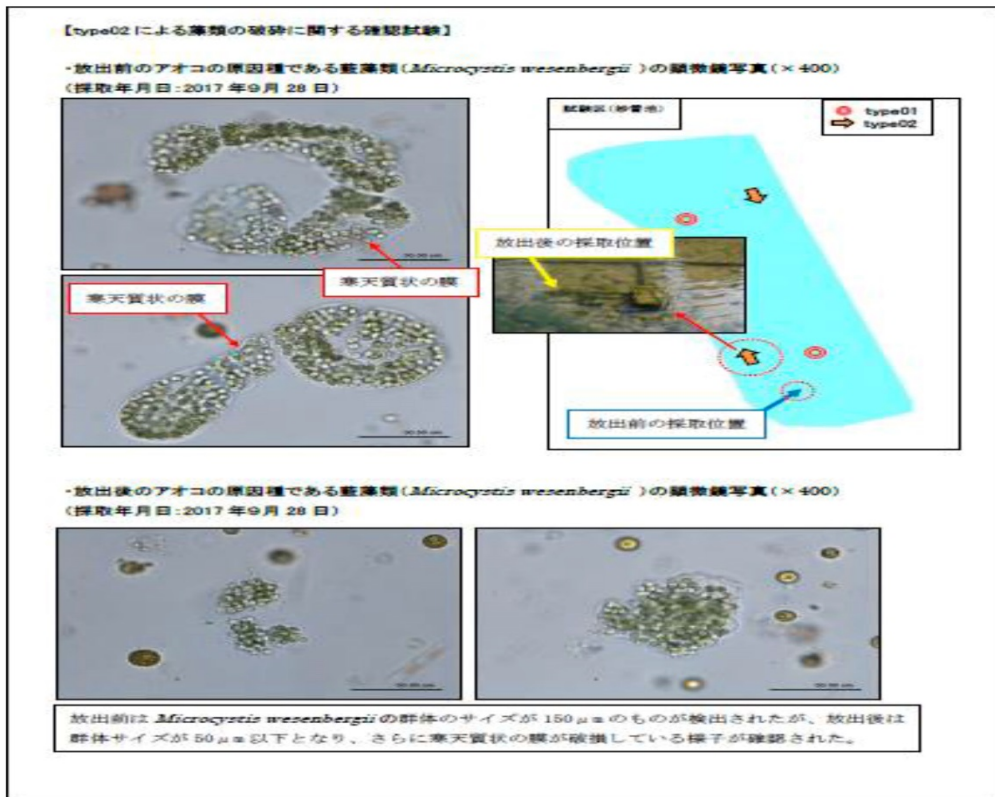
環境省ETV実証実験結果



環境省実証試験結果数値

表1 実証試験結果一覧表(2017年7月14日~11月2日)

実証項目	測定項目	測定場所	定期(臨時)調査															
			事前調査			7月			8月			9月			10月			11月
			7月14日	7月19日	7月26日	8月1日	8月22日	9月1日	9月28日	10月5日	10月18日	11月2日						
参考項目	透明度	試験区	13.0	9.0	16.0	11.2	15.2	18.8	22.0	50.0	65.5	100.0						
		対照区	24.5	17.0	28.0	34.0	20.2	24.0	11.5	10.0	8.5	9.0						
	水温	試験区	30.0	27.5	26.0	31.1	27.0	25.1	21.8	20.5	18.5	20.5						
		対照区	33.0	30.9	27.5	30.1	28.1	23.2	22.1	19.1	17.0	16.7						
	DO	試験区	28.7	31.0	27.0	29.5	29.4	23.1	23.0	19.2	17.2	15.4						
		対照区	11.57	13.51	—	12.00	11.82	12.91	11.76	10.88	9.94	9.94						
		対照区	6.48	19.83	—	12.40	10.75	10.57	10.34	9.91	9.68	9.43						
	pH	試験区	9.6	10.2	—	9.6	9.1	9.2	8.0	8.0	7.7	7.4						
		対照区	7.8	9.5	—	9.0	9.2	8.5	8.6	7.9	7.8	7.6						
	COD	試験区	21.3	36.1	—	42.7	12.4	15.0	8.6	4.8	3.7	1.9						
	対照区	14.2	14.7	—	13.4	11.0	14.6	9.4	9.2	10.3	7.3							
SS	試験区	40	58	—	68	24	40	23	10	9	3							
	対照区	34	24	—	15	20	17	42	40	59	38							
全窒素	試験区	2.31	3.50	—	2.48	0.95	0.78	0.95	1.05	1.46	2.43							
	対照区	1.21	1.29	—	1.07	0.91	1.00	1.01	1.40	2.02	1.08							
全リン	試験区	0.339	0.425	—	0.568	0.157	0.182	0.202	0.159	0.172	0.160							
	対照区	0.110	0.125	—	0.094	0.094	0.090	0.157	0.154	0.171	0.108							
クロロフィルa	試験区	400	510	210	200	85	120	45	32	27	2.9							
	対照区	9.6	13	12	15	11	17	21	34	15	2.7							
濁度	試験区	32	38	23	37	22	32	17	17	7	2							
	対照区	20	15	13	11	15	19	29	40	55	38							
捕集資料	アンモニア態窒素	試験区	1.07	0.10未満	—	0.10未満	—	—	—	—	—							
		対照区	0.10未満	0.10未満	—	0.10未満	—	—	—	—	—							
	亜硝酸性窒素	試験区	0.005未満	0.005未満	—	0.005未満	—	—	—	—	—							
		対照区	0.005未満	0.005未満	—	0.005未満	—	—	—	—	—							
	硝酸性窒素	試験区	0.05未満	0.05未満	—	0.05未満	—	—	—	—	—							
		対照区	0.05未満	0.05未満	—	0.05未満	—	—	—	—	—							
	溶解性全窒素	試験区	0.78	—	—	0.78	0.22	0.20	0.65	0.91	1.31	2.46						
		対照区	0.47	—	—	0.60	0.38	0.41	0.24	0.46	0.68	0.43						
	溶解性全リン	試験区	0.063	—	—	0.312	0.053	0.043	0.059	0.112	0.132	0.144						
		対照区	0.026	—	—	0.031	0.031	0.016	0.021	0.019	0.021	0.003						
VSS	試験区	31	48	—	56	16	33	14	6	6	1							
	対照区	9	13	—	3	6	12	14	20	20	6							
備考	捕集開始日	7月14日	8月2日	8月22日	9月12日	9月20日	10月5日	11月3日										
	Type01	400L	200L	200L	200L	300L	400L	300L										
	Type02	—	—	2kg	1kg	1kg	1kg	1kg										
	Type03	100L	50L	50L	50L	20L	40L	20L										



守山市準用河川大川水質浄化の実証経過に対する検証

- 水資源機構管理の水門経由の通水と上流部からの暫定的な流入水が 10,000 m^3 あり、水の流出入は実証開始時点に比べ大きく変化している。
- 上流部からの流入水に雑排水等が多く水質改善に寄与していない。
- 閉鎖水系にならないため、弊社のシステムの浄化効果が安定しない状況となっている。継続的な浄化効果を期待する場合は、流入量を減らすか、水門を閉門させるような対策を検討することが必要。
- 藻類等による日中の表層部の酸素供給はあるが、水底の底泥等には、まだまだ難分解性有機物(濃褐色のヘドロ状物質)が多く、CODは高止まりしている。また、濃褐色の原因として、酸化鉄が多いことも挙げられる。
- 浮遊物質(SS)の基準値を大幅に超過していたが、基準値に近いところまで改善している。これには弊社システムの稼働が奏功していると考えられる。
- 弊社システム稼働を止めれば、そもそも水系内の浄化機能が不足しているため、難分解性有機物のたまり場となり、以前の状況に戻る可能性が高い。



1

2018年度 大川フォーラム

大川を舞台に 地方創生にチャレンジ —haconiwaからの提案

大川活用プロジェクト支援団体haconiwa

濱野 優真 (立命館大学経済学部3回生)
柳田 直哉 (立命館大学生命科学部1回生)



こんにちは立命館大学の haconiwa です。
第2部議論の話題提供として、発表させていただきます。

2

自己紹介

柳田 直哉

(やなぎた なおや)

- 立命館大学生命科学部
1回生
- 愛媛県出身
- 小さい頃から自然や
環境保護に関心
- 大川の環境改善に惹かれ
サークルに参加



▲活動中の写真(琵琶湖体感・体験クルーズにて)

3

本日のアウトライン

1.「次世代型地域創生」

—大川活用プロジェクト

2.具体的なアイデア

—「美崎らしさ」と連続性



まず、「次世代型地域創生」という今回のテーマについて、私達なりの定義を説明します。

そして、それを踏まえた上で具体的なアイデアを提案させていただきます。

4



1.「次世代型地域創生」

—大川活用プロジェクト

「次世代型地域創生」とは何か？とメンバーで考えたとき、「次世代」である若者や子どもたちにとっての教育的価値がその重要な要素ではないかと考えました。

【6枚目まで】

5



6



7

子どもの自然体験活動の重要さ

…子どもたちに「生きる力」をはぐくむためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が必要であるということである。…しかしながら、…今日、子どもたちは、直接体験が不足しているのが現状であり、子どもたちに生活体験や自然体験などの体験活動の機会を豊かにすることは極めて重要な課題となっていると言わなければならない。こうした体験活動は、学校教育においても重視していくことはもちろんであるが、家庭や地域社会での活動を通じてなされることが本来自然の姿であり、かつ効果的であることから、これらの場での体験活動の機会を拡充していくことが切に望まれる。…（「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第一次答申)」平成8年7月19日中央教育審議会答申より）

守山市環境学習都市宣言

1 わたくしたちは、環境学習を通じて、人と人がつながり、環境や自然に関心を持ち、その大切さを共有します。

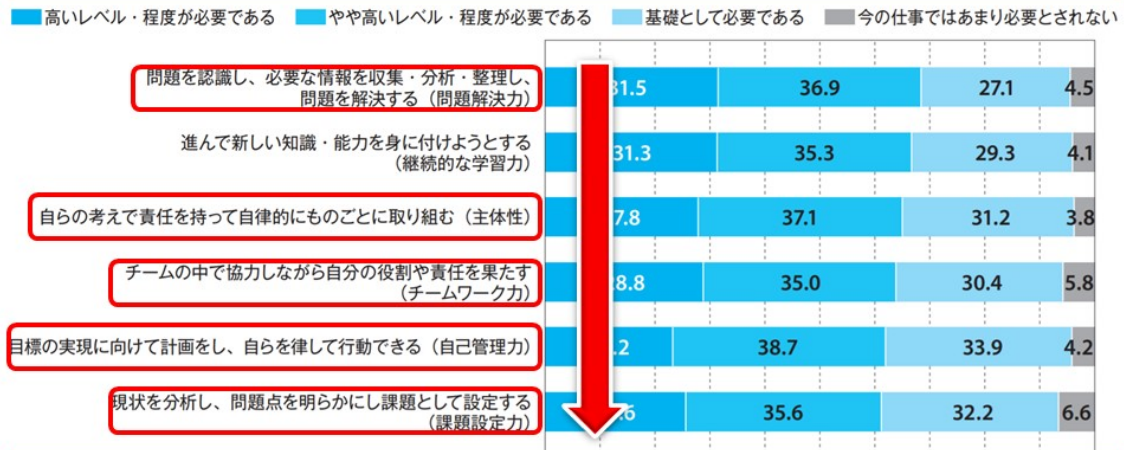


自然体験活動の充実は子どもたちの「生きる力」を育むことができる

まず、地域の子どもの「学び」についてですが、文部科学省の答申によると、今の子どもたちには直接体験が不足しており、自然や実際のひとや物に触れる体験が必要です。また、守山市の環境学習都市宣言でも実際の体験である環境学習を通して人と人とのつながりが生まれたり、環境や自然への関心をもつことの重要さが強調されています。このように、地域創生を通じた自然体験活動の充実は、子どもたちの「生きる力」を育むという点で、子どもたちにとっての教育的価値を有しています。

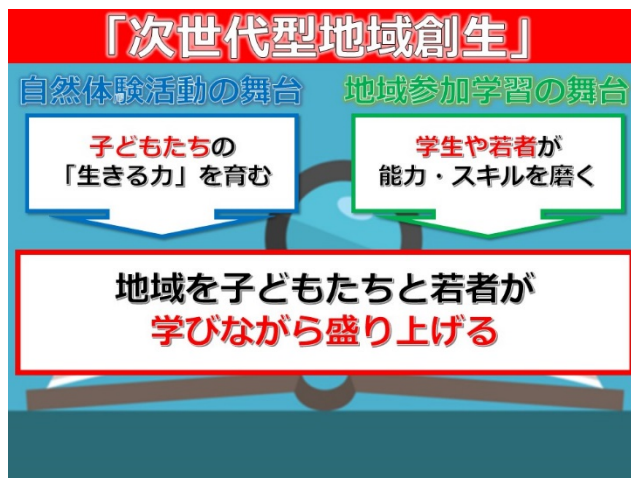
学生に対する社会的ニーズ

図1 仕事をするに当たって、次の能力・スキルはどの程度必要とされるか (社会人1-3年目 n=1,732)



**社会が若者に求めているスキルは
地域参加によって磨くことができる**

次は私達大学生の「学び」に関しては、グラフに示したように社会で求められる能力・スキルの多くが、地域創生を通じた地域参加学習によって得られる点があげられます。講義だけでは身に着けることのできないスキルを身に着けられるという点で、若者にとっても次世代型地域創生には教育的価値があります。



すなわち、地域で子どもたちと私達学生が学びながら、そして、地域の文化や習慣、地域の方々の知恵などをご教授いただきながら、世代を超えて皆で楽しく盛り上げていくことが次世代型地域創生なのではないでしょうか。

10

次世代型地域創生の基礎条件



活動目的の明確化

- 全体を通した統一感、連続性のある企画

これらを踏まえた上で、今後次世代型地域創生としての大川活用プロジェクトが実行していくべき企画に必要な基礎条件を2つ示します。

1つ目は、全体を通した統一感、連続性のある企画です。今年度、冬の自由研究室や学習支援など、新しい企画がいくつか追加されましたが、企画が増えるにしたがって、そもそもプロジェクトは何を目指していたものなのか、場合によっては見失ってしまうリスクもあります。そのため、今一度活動目的を明確化し、そこに向けた明確な理由のある企画を提供していく必要があります。そうすることで、子どもたちの学びもより深いものとなり、教育的価値が向上していくと考えられます。

11

次世代型地域創生の基礎条件



資源の有効活用

- 他にはない「美崎らしさ」
- 関係の人・機関との協力

2つ目は、美崎特有の資源を生かした企画であることです。大川や琵琶湖、田んぼや畑などの豊かな自然と地域の文化や風習、地域の方々の知恵や技術を有効に活用し、この地域の独自性を出していくことが求められるでしょう。これは、この地域の地域創生だからこそ学べる価値を高めることで、一層地域創生を加速させると考えるからです。

美崎自治会館の皆さん、子ども会さん、守山市役所の方々、地域の小学校さんや保育所さんにもご協力いただきながら、企画を進めることは、人的資源の有効活用という意味で、この条件に該当します。

12

次世代型地域創生の基礎条件

活動目的の明確化 資源の有効活用

- 全体を通した統一感、連続性のある企画
- 他にはない「美崎らしさ」
- 関係の人・機関との協力

「美崎らしさ」を活かした企画を
年間を通じて提供する

これらの条件をまとめると、「美崎らしさ」を活かした企画を年間を通じて提供していくという目標が得られます。それが、地域で子どもたちと私達学生が学びながら世代を超えて地域を盛り上げる「次世代型地域創生」につながっていくのです。

【13 枚目まで】

13

次世代型地域創生の基礎条件

「美崎らしさ」を活かした企画を
地域を子どもたちと若者が
学びながら盛り上げる
「次世代型地域創生」

14

2.具体的なアイデア
—「美崎らしさ」と連続性

次に具体的なアイデアです。

15

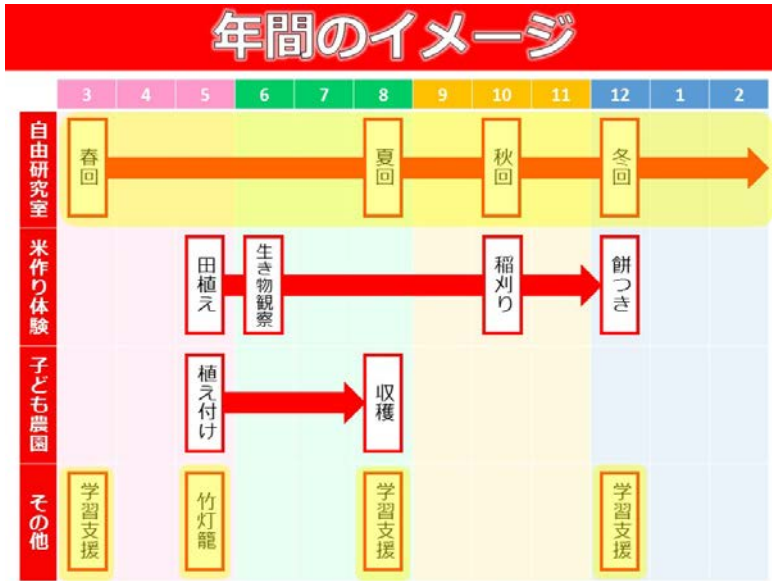
自己紹介

瀧野 優貴 (はまの まさき)

- 立命館大学経済学部3年生
- 立命館守山高等学校出身
- 当時大川をフィールドにヘドロセラミックの研究に取り組む
- 卒業後、共同研究をしていた先輩とhaconiwaを設立



▲高校生当時の写真(水環境研究活動交流会にて)



最大のチャレンジは、自由研究の年間イベント化です。今年度は、夏のみ開催だった自由研究室に、冬バージョンを加えました。好評をいただき、また集客や注目度からみて、美崎の取り組みの看板になっているものと思いますので、これを年間を通じた企画にできないかと考えています。連続して美崎の魅力を提示することで、子どもたちがごく当たり前に、日々大川に集うようになることが理想です。

提案① 寺子屋(学習支援・環境学習)

- 夏休みの宿題を支援
- 絵画や読書感想文のサポートも
- 昼食は農家の協力でカレーを提供



まずは、すでに開催実績のある企画の継続についてです。

これは、夏休みに実施した学習支援ですが、次年度も続けていきたいと思えます。

提案② 夏休み大川自由研究室

- 例年通り開催
- 立命館守山高の協力も得たい
- 農業・漁業体験、プランクトン観察



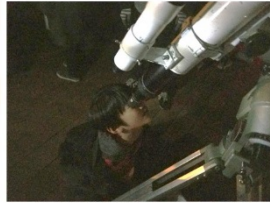
こちらは、夏休み大川自由研究室です。今年度初めて立命館守山高の協力を得てプランクトン観察をしました。可能であれば、来年度も行いたいと思えます。

提案③ 冬休み美崎自由研究室

- 昨年通り開催
- 冬休みの宿題を支援
- プラネタリウム見学や星空観察も



かるた作り@自治会館



立命館大学草津天文研究会の協力で星空観察
@大川ウッドデッキ

冬休み美崎自由研究室では、プラネタリウム、星空観察について琵琶湖マリオットホテル様、立命館大学草津天文研究会の皆さんのサポートも受け、さらに協働の輪が広がっていることを実感しています。ここまでの継続実施の提案です。

提案④ 美崎地区クイズラリー

- 「みさき図鑑」の活用
- 「自由研究室(春)」で開催
- 受付で解答用紙を貰い、出題地点を回ってクイズに答えていく



ここからが全く新しい提案です。

それぞれスライドに明記したように、春または秋の自由研究室の企画の一部として考えています。

以前に作成された「みさき図鑑」を有効活用できないか考えた企画がこの美崎地区クイズラリーです。

美崎に様々なポイントを設置し、グループでまわってきた子どもたちがそこで待機している地域の方々の説明を聞き、その後、説明に関する問題を出題します。

問題や説明の内容は、「みさき図鑑」を参考に作成し、クイズラリーが終わってから「美崎図鑑」自体も子どもたちに配り、大切に保管できるようにします。

正解した子どものシート（事前配布）にはスタンプが押されます。子どもたちがスタンプを集めていき、全て集めると景品をもらうことができるなどすればよいと考えています。

提案⑤ 0円食堂

- 近隣の農家や漁師さんのもとを訪れ、**捨ててしまう食材**をいただいて料理を作る
- 「自由研究室(秋)」で開催



こちらの企画は、テレビ番組の人気コーナーをモチーフにしたもので、子どもたちが農家をまわり、本当は食べることができるけれど捨てられてしまう食材を集め、集めた食材を使って、お昼ご飯や夕ご飯を作るというものです。

多少、事前にすり合わせが必要かと思いますが、食品廃棄の問題等についても考えるきっかけになり、この地区の農業に親しめる企画でもあると考えます。

提案⑥ 美崎フォトコンテスト

- 子どもたちが美崎の**写真**を撮影
- メッセージを付けて**SNSで発信**する
- 「自由研究室(春or秋)」で開催



美崎フォトコンテストは、子どもたちに美崎の魅力を写真に撮ってもらい、メッセージをつけて募集するものです。

私たちの SNS アカウントで写真とメッセージを発信します。

自分たちで魅力を外部に発信できることを実感してくれれば、地域創生の持続可能性にも寄与できます。

SNS の活用は、私達大学生が支援し易い分野でもあります。

提案⑦ 竹灯籠祭り

- 近隣学校の吹奏楽部などの**演奏会**
- **竹炭の製作**まで実現したい
- 「自由研究室(春)」で灯籠に絵を描く時間を設ける



当日は約300個の灯籠を川に浮かべる等した

灯籠には近隣の商店や学校名を絵や文字で描いてもらった

竹灯籠祭りは継続実施の提案でもあります。

今年は、事前に春休み自由研究室で灯籠の側面に絵を描く時間を設け、竹灯籠祭りの準備の段階から子どもたちにかかわってもらえればと考えています。

24

提案⑧ アクセサリー作り

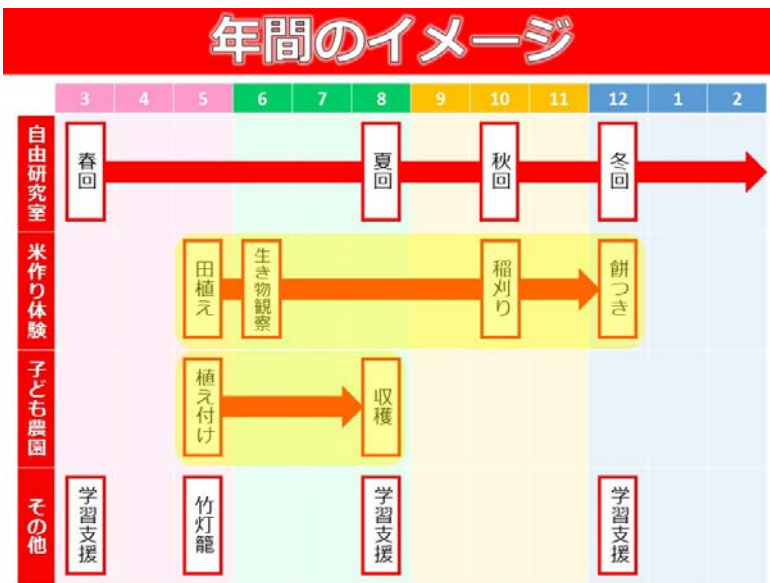
- 新川や大川周辺の草木の実を使う
- 「自由研究室(秋)」で開催



アクセサリー作りはこれまでの何度か提案されていた企画です。

新川周辺や美崎公園で採れたムクロジ等を使ってアクセサリーを子どもたち自身で作ってもらうというものです。

25



次に、自由研究室以外の企画です。

米作り体験と子ども農園を提案します。

よくある企画ですが、年間を通じた連続性という観点から、一味違う特徴を持っています。



26

提案⑨ 米作り体験

- 田植えや稲刈りの体験を行う
- 餅つき大会もする
- 田んぼの生き物観察もしたい



米作り体験では、休耕田等を利用して子どもたちに田植えや稲刈りの体験をしてもらいます。

さらに、田植えした後の田んぼで生き物の観察をしたり、できればもち米を育てて収穫後に餅つき大会をするなどして、生産だけでなく、生物と農業の関連、「食べる」という行為まで考えられる企画とします。

もち米を作るのが難しい場合は、収穫しをもち米をもち米に交換してもよいと思います。

提案⑩ 農業体験

- 「子ども農園」を設置
- ゆくゆくは収穫した野菜を使った弁当を「おうみんち」で限定販売する



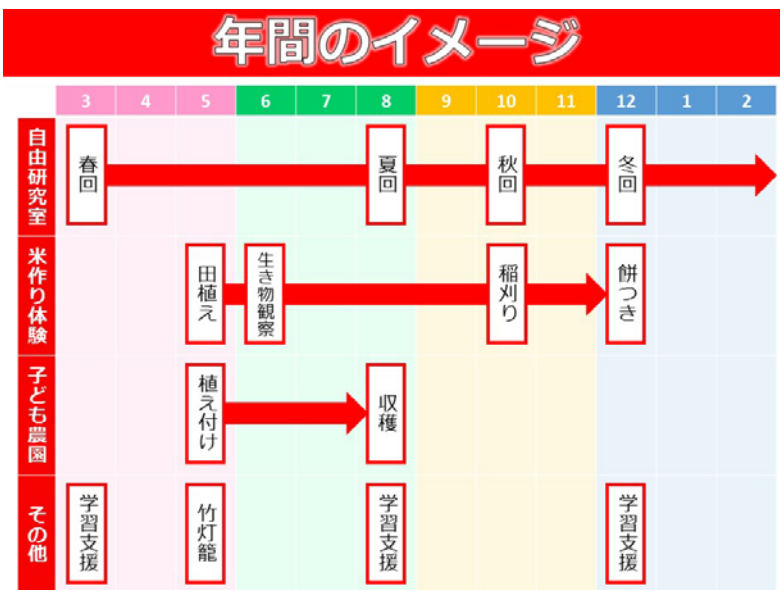
農業体験は、休耕地の有効活用として提案します。

私（濱野）は、大学で農業経済学を専攻していますが、農業という産業は、生産（栽培）だけで完結する産業ではありません。

加工（調理）、流通、販売まで含めた巨大な産業（フードシステム）で、近年では1次産業と言わず、2次産業的な製造・加工、3次産業的な販売も掛け合わせて、 $(1 \times 2 \times 3 =)$ 6次産業と呼ぶことが一般的になりつつあります。

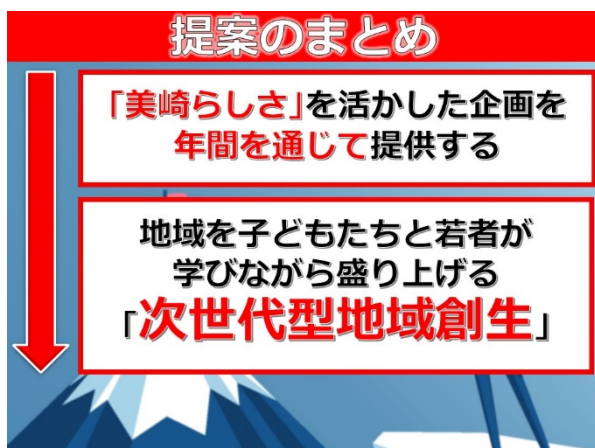
この幅の広い現代の「農業」とい産業を子どもたちにも体験を通して気づいてほしいと考えています。

作物をつくり、それを弁当にして、「おうみんち」で限定販売し、「ありがとう」や「おいしい」と言ってもらえるところまで含めて体験することで、現代の農業を知り、「農業って面白い！」と関心を持ってくれる子どもたちも出てくるはずです。



以上が今回の提案内容です。たくさんありますので、最終的な目標ととらえていただき、まずはできるところから実現させていければと考えています。

29



「美崎らしさ」を活かした企画を年間を通じて提供することが、地域を子どもたちと若者が学びながら地域を盛り上げる「次世代型地域創生」につながっていくのではないかと問う問いかけが、今回の話題提供の核でした。

30

**大川を舞台に
地方創生にチャレンジ**
—haconiwaからの提案



大川活用プロジェクト支援団体haconiwa
Twitter @haco2wa_bkc
Facebook 「大川活用プロジェクト」で検索

以上です。ありがとうございました。

「第7回大川フォーラム」美崎・大川を舞台にもう一つの地方創生を考える

平成30年2月3日13:30～16:00

美崎自治会館

開会・挨拶 美崎自治会長

報告

永井さん	「夏休み大川自由研究室の開催」「アジアの青年との植樹」
立命館大学学生団体 haconiwa	「デッキ竣工記念竹灯籠の点灯」、「冬休み自由研究室の開催」「学習支援」
柳田くん	<p>先ほど、水質浄化の話もありましたが、私の地域は泉が多く、小さい頃から川に入り、魚を網で捕まえる体験をしてきました。大川も将来子ども達が川に入って魚つかみを楽しめる状態になって欲しいです。</p> <p>本日は、「次世代型地方創生」について私達の意見を述べ、具体的なアイデアを提案します。地域創生を進めていく中で、私達学生や子ども達が学ぶ機会を得る、そういった価値があると思います。</p> <p>まず、子ども達の学びについてです。文部科学省の答申では、最近の子ども達は直接の体験が不足しているため、自然やひと、ものに触れる機会が必要と言われています。守山市の環境学習都市宣言では、実際の体験である環境学習を通して、人と人のつながりが生まれ、環境や自然への興味がわくと記されています。友達と自然の中で遊んだ経験や、祖父からみかんのもぎ方を教わった経験はいい思い出であり、現在の自分の基になっていると思います。</p> <p>次に、私達大学生の学びについてです。学生に対して求められる能力・スキルなどの中でも、特に主体性やチームワーク力が重要だと思いますが、これらは地域参加によって伸ばすことができると思います。haconiwaの活動を通してこれらの能力の成長を学生みんなが感じています。haconiwaの活動は、大学の講義では得られない大変貴重な体験となっています。</p> <p>地域のみなさんから、地域の文化や習慣、知恵をご教授いただきながら、子ども達の学び、私達学生の学びを通し、世代を超えて、地域を盛り上げていく。これが次世代型地方創生ではないかと考えます。</p>
柳田くん	<p>次世代型地域創生に取り組むうえで、基礎となる条件を二つ提示します。</p> <p>一つ目は、「環境学習」をテーマとし、統一感と連続性のある取り組みを行うことです。二つ目は、美崎特有の資源を活用することです。大川、琵琶湖、田んぼ、畑など豊かな自然と、地域の文化や風習、知恵、技術を学ぶ機会を得ることです。</p> <p>そのために今後も、美崎自治会、子ども会、守山市役所の方々、小学校にご参加・ご協力いただくことで、輪が広がっていくと思います。美崎らしさを活かした企画を行い、子ども達や私達学生が学びながら地域を盛り上げることが、次世代型地方創生につながっていくと思います。</p>
濱野くん	<p>よく言われる一般的な地域創生を盛り上げていくということに関しては、この地域は既に出来ていると思いますが、これを次世代に高めていくというのは、子ども達や学生の学びにもなっていく、そのように有効活用できれば良いのかなと思っています。</p> <p>ここから具体的な提案をさせていただきます。注目していただきたいのが、「自由研究室」です。今年度からは、夏休みに加えて冬休みも活動しましたが、それぞれ好評いただいております。できれば、春秋も加え年間を通した企画にし、美崎の魅力に触れられる企画にしていきたいと思っています。冬休み自由研究室では、プラネタリウムはホテルの協力や、星空観察会では立命館守山高校の天文を研究するサークルの協力を得ており、輪が広がってきていることを実感しています。</p> <p>春と秋に加えて実施したい自由研究室では、室内の工作と、外に出て活動するものを合わせて一日で行いたいと考えています。春に実施したい企画は「美崎クイズラリー」です。以前、作成されていた「美崎図鑑」を有効活用し、これを基にクイズラリーを行いたいです。美崎にいくつかのポイントを設置し、地域の人に立ってもらい、そこへ子ども達がグループで回ってくるというイメージです。ポイントで、地域に関する説明をしてもらい、クイズを出題してもらいます。クイズに正解したらスタンプを押してあげ、スタンプを全部集めたら景品をあげます。子ども達は美崎を歩き回り、地域について知ることができると思います。</p>

濱野くん	次の企画は「0円食堂」です。有名なテレビ番組の企画で、農家や漁師さんの所へ出掛けて行って、余っている食材、捨ててしまう食材はないか聞き、その捨ててしまう食材だけで料理を作るという内容です。本当に捨てる食材だけを集めるというのは厳しいと思うので、調整は必要ですが、子ども達に農家やいろいろな所を回って、食材を集めてもらい、お昼御飯か晩御飯をつくる。食品廃棄について考えるきっかけになると良いと考えています。
濱野くん	次は「フォトコンテスト」です。これは既に自治会館の中に集められた写真が飾っていたりするので、同じような形で行うのですが、子ども達に短いメッセージを書いてもらい、写真に添えてツイッターやフェイスブックで流します。子ども達が検索すると自分の写真とメッセージが見れることで、写真を集めるだけでなく、情報発信できることを感じ取って欲しいです。こういった取り組みは、私達学生が一番支援しやすいところだと思います。実はhaconiwaはフェイスブック、ツイッター、ホームページを持っていますので、これはすぐに出来ると思います。
濱野くん	「竹灯籠祭り」を今年もするならば、春休み自由研究室で灯籠の側面の絵付けを行いたいと考えています。去年できなかったですが、学校の吹奏楽部を呼びたいです。それから、難易度が高いと聞いていますが、負担にならない範囲で竹炭作りにも挑戦したいです。
濱野くん	毎年、声があがっていますが、新川や大川周辺の木の实などを使った「アクセサリー作り」がやれないかなと考えています。例えば、羽根突きのこまの部分を作り、冬休みそれを使って遊べたら楽しいのではないかと考えています。 ここまでが自由研究室の話でした。
濱野くん	ざっくり言うと、田んぼや畑で子ども達が何か作物を育てるという企画です。ひとつめは、「米作り体験」です。田んぼや畑で余っている場所、空いている場所があると聞いたので、そこを使って、子ども達に田植えや稲刈りの体験を提供できないかと考えています。田植えや稲刈りは学校でも行っている場合があるので、学校でできないことは何かと考えると、1年を通した企画にしたいです。例えば、田んぼの生き物観察や、もち米を作って餅つきをするなど食べるところまで体験して欲しいです。
濱野くん	私は農業経済学の分野を勉強していて、こだわりがあるところなのですが、農業は作って終わりではなくて、栽培したあとに調理、加工し、その後流通させ、売り、食べてもらう、大きな産業、フードシステムです。6次産業とよく言われるように、農業が幅広い産業であることを子ども達に知ってほしいです。できれば、休耕地を使って作物を栽培して、それを利用して例えば弁当を作り、おうみんちさんで限定発売で売りたい。販売して、ありがとう、美味しいと言ってもらえるところまで子ども達に体験してもらいたいです。この体験を通して、子ども達に農業への関心を高めてもらいたいです。
濱野くん	ここまで紹介させていただいた企画を一気に行うのは負担が多いと思いますので、出来るところから進めれば良いと思います。地域の資源とみなさんの行動力は凄まじいので、上手く活用しながら取り組みたいと思います。 まとめとしては、「美崎らしさ」を活かしながら年間を通して企画を出していくこと、それによって子ども達を上手に取り込みながら、盛り上げていくことが新しい地域創生なのかなと思います。以上で話題提供を終わります。
子ども達	感想・意見
守山市環境政策課	大川水質浄化事業と結果
	討論
速野小学校 校長	学校教諭をさせていただいております。子どもが育つうえでかけがえのない3つの教育というのがありまして、学校教育と社会教育と家庭教育です。今、忙しさから社会教育も家庭教育が希薄になり、社会教育も家庭教育も学校教育の場に盛り込まれているという大変な状況になってきています。本来、役割分担されるべきものが、学校にすべて来ている状況です。その代表的な例として、総合学習の時間があり、子ども達が地域に出掛けたり、子ども達が課題を持ったり、というのをしております。本来、地域社会でしていただければ、子ども達にとって良いのかなと思っています。

速野小学校 校長	<p>「子どもが学ぶことは、本来は多様であるべき」と考えています。学校教育は、学習指導要領があり、全国一律同じ内容をしなければならないという使命があります。実は、私が子どもの頃は勉強はあまり好きではありませんでした、学校が終わってから野山で遊んだり、近くに膳所城の城跡がありましたので、好きな勉強をするのは好きだったのですが、そのようなことが保障される場がなかったということが、思い出としてあげられます。美崎に寄せていただいてから、速野の取り組みを見せていただき、参加させていただくことを通して、本当に素晴らしいことをされているなと思っております。</p> <p>何が素晴らしいかと申しますと、子どもが学んでいくには、「確かさ」「豊かさ」大きな二つの側面が必要だと思っています。「確かさ」は、内容的な正確性と子どもが魅力を感じるものということです。それは立命の学生が関わっておられたり、京都大学の先生がいらっしゃったり、そして、何より大川という素晴らしい素材がある、そういうものだと思います。もう一つ「豊かさ」は、地域の方の支え、サポートだと思います。子ども達の成長を見守っていただいていることです。「確かさ」「豊かさ」が両立していると思います。先ほど6年生の発表で、お父さんに無理やり連れて来られたというのがありましたけど、やっぱり来てよかったと思えるもの。子どもは正直ですから、「確かさ」「豊かさ」どちらかがないと敏感に反応しますので、彼はそのあたりしっかりと証言してくれていたかなと思います。</p>
速野小学校 校長	<p>それからもうひとつ、子どもの原体験が大切だと思っています。子どもは知識と技能を学校でいっぱい教えられると思いますが、本当に大事なのは子どもの核になる感性や感覚の部分だと思います。それは、先ほどのhaconiwaのみなさんの話にもありましたけど、それは原体験・直接体験を通してしか育ちようがないんです。実際に自分で触れる、人と接して温かみを感じる、そういった体験があった子となかった子では、大人になって違いがでできます。悲しい事件がいっぱい起きていますが、そういった体験が欠落してる子がおそらくそうになっているのではないかと思います。</p> <p>美崎の取り組みは素晴らしいものだと思います。先ほどのhaconiwaのみなさんの提案を聞いていて、小学校の校長をしていた伊藤さんとお話するなかで、彼らは一体何を目的にしているのだろうという疑問がありましたけど、ひとつ答えがでたような気がします。我々、昭和を生きてきた大人たちは世の中全体が成長期の社会を生きてきました。いっぱい物を作って、いっぱい儲けてという時代を生きてきた大人なんです。自分の学生時代を振り返ると、自分の得にならないことはあまりなかったと思います。今は、これ以上金銭的にも物質的にも豊かにならない成熟期を迎えていて、若者はどのように生きていくのか考えていたのですが、今日彼らの話を聞いていて、とても腑に落ちました。そして、我々自身が成熟期をしっかり生きていないのかなと思いました。むしろ彼らの方が、新しい時代を敏感に感じ取って、自分達の生きる場所を見つけ出していると感じました。そういう点で、彼らの素晴らしさにこれから大きな期待をしたいと思います。</p> <p>私も今年でまもなく速野小学校の校長を終えるので、残念に思っています。何かの形で関わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
子ども会 会長	<p>竹灯籠を手伝ってくださいということきっかけに、大川に関わらせてもらうようになりました。最初はピンと来なかったんですけど、自由研究室・学習支援・植樹祭・星空観察会で子ども達の笑顔が一番輝いているなと思いました。こういう機会は、継続していつまでも増えていくと思います。最初、学習支援どうなるか心配していたんですけど、冬休みには入りきらないほどの人数になってしまっていて、来年どうなるのかという心配の方が大きかったです。来年もしていただけるということでしたら、人数はどんどん増えていくと思います。今年で美崎の子どもは141名です。来年は155名くらいになると思います。</p> <p>いろいろ提案していただいているんですけども、子どもと保護者の両方が楽しめるように考えてもらえるとうれしいかなと思います。例えば、クイズラリーは親子で参加してもらえるようにしてもらい、自転車で回るとか親子で楽しめる体験型というのも良いかなと思っていました。</p>
子ども会 会長	<p>竹灯籠に関してですけれども、最初に参加した時に1日だけで終わりなのはせっかく綺麗なのに残念だと思いました。例えば、1週間点灯すると良いなと思いました。</p> <p>今年で子ども会会長は終わるんですけども、また来年子ども会に引き継げるように出来たらと思います。よろしくお願いします。</p>

市民交流センター 館長	<p>市民交流センターは、市民のみなさんの活動の情報提供の場、また、みなさんを支援する場になりたい、そういうものが欲しいという場になりたいということで25,6年前から活動させていただいておりました。その活動へのご指導をいただいたのが、伊藤さんです。</p> <p>私自信が市民活動しているなかで、また、協働という言葉がひとり歩きしているなかで、感じることは、この美崎・大川では一番大事なことが網羅されています。なぜかという、「よそ者」をしっかりと受け止めていただいている、これが大きな力になります。他の地域では、「何しに来てるんや」と、昔からの集団が固定化していて、私達が活動していく難しさがありました。そこを打破していくには、大変力が必要です。そして、学生さん、若い方を引き入れていただく。ただ、今までもあったのですが、学生さんはいずれ就職されるので、継続性がどれだけあるか、そういった難しさも感じております。</p>
市民交流センター 館長	<p>様々な協働があるなかで、元気な市民が作り出す協働というのが、この大川プロジェクトではなされている。そのことをずっと継続していただきたいですし、また市民交流センターとして、このような活動を守山市で広めていく、そうすれば、元気な大人がいれば元気な子供が増える、改めて市民交流センターとしての役割を感じております。みなさんのご支援をこれからもよろしくお願いします。ありがとうございます。</p>
濱野くん	<p>地域からの目線ではなくて学生からの目線でお話させて頂きますと、先程、校長先生がおっしゃったように自分たちで先へ先へ進んでいこうという気持ちで、新たに代わっていく時代になってきていると思う。</p> <p>守山市環境都市宣言で取り上げられています持続可能性が重要だと思います。持続可能性は自分たちが住んでいて後世のことを考えて、何が出来るかを考えていくというもので、実際、今回のテーマである次世代型の地域創生のもとで話をしております。次世代型の地域創生となると、もともとあった形に戻そう、今をどうしようではなくて、自分たちの先の子達がいいと思える環境を作る、その結果、自分達にいい結果として返ってくる、このような結果を踏まえて、インセンティブが学生の中でも変わってきていると思います。元々の地域創生を学生が取り組むなら、就職活動が有利になるように実際に自分がやったことの一つの証明の手段としてでしたが、次世代型は自分達も成長できるし、自分達の経験が次に活かせるので必要性を感じます。学生の活動も持続的にやっていかなければならないと思います。先ほどもありましたように「確かさ」「豊かさ」を学生自身が見極められる必要があるのかなと思います。以上です。</p>
伊藤さん	<p>先ほどの復習になりますが、やはり、私達地域は新野洲川が開通されて、水溜まりになった。それを浄化する。それが一つの目的だった。それが今では木に枝がなって、花が咲き、実になっていくように段々輪が広がっていった。美咲が皆さんに注目していただくようになりました。地域の子供たちがここに住んで良かったなって言ってもらえる地域にしていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。</p>
宮本市長	<p>クイズラリーとか0円食堂、アクセサリー作り、是非、やって頂きたいと思います。デッキを活かした活動として、大川の水面をカヌーで競争したり、大川の水面を活かした活動を取り組んで頂きたい。さきほどおっしゃった竹灯籠できれいになったが、寒いのですぐ撤収になりました。一週間とかゴールデンウィークとか、ゴールデンウィークならマリ奥特さんもたくさんお客さんが泊まっていますので、長く見てもらえる仕組みを考えて頂きたい。</p> <p>大変良いお話をありがとうございました。</p>
伊藤さん	<p>大川に行って、美崎のここではとんでもないことが起きていると思いました。</p> <p>一つは若者が地域社会に入って来て、私どもの様な高齢者と地域活動をする。加えて、そのテーマが子供の育ちを応援する。これってすごいなと思います。私の若い頃と比べると、全く違う行動をしている。次の時代を見据えている。何をしたら良いか分からなかったが、地域のもを活かして子供の教育を応援する一つの形が見えてきた。若い親御さん達が住むのは美崎がいいねと思ってくれば、美崎は人口も減らないのかなと願っています。</p>
質疑応答	
参加者	大川デッキから地球市民の森までの歩道の整備を希望します。

市長	なぎさ公園で菜の花が綺麗に咲いていますので、写真撮影にたくさんの方が訪れています。なぎさ公園から大川のデッキに渡ってくる歩道を公安委員会にお願いしていますが、まだ良い返事をもらえていません。それが出来ると繋がりがよくなるので、おっしゃって頂いたように、おうみん家から旧野洲川の南側までサイクリングが出来たり、散策したり、歩いて楽しい場所、いろんな物が見える体験が出来る場所を作っていきたいと考えております。
市長	haconiwaさんから素晴らしい発表を頂いたんですが、一年を通じて、自由研究室、学習支援、米作り子供農園、全部やろうと思っていますか。ここに居る皆さんの協力を得て取り組まれると思いますが、意気込みを是非お聞きしたいです。
濱野くん	普通の地域なら出来ないこともこの地域なら出来ると思っていますが、私達は学生ですから毎日とはいきませんので、地域の皆さんが負担にならない程度でやってみたいです。去年も竹灯籠も実行できましたし、冬休みの自由研究も構想から実行まで一か月でしたし、やってみると何とかかなと思っています。ただ、農園と米作りに関しては、こういう訳にはいかないの、詰めが必要だと思っています。
安藤先生	今日みなさんのお話を聞いて、私は美崎に関わり始めて8年、守山には10年以上になります。最後伊藤さんが上手にまとめてくれたんですが、一つ足します。若い女性が住みたい街っていうのは次世代の地域作りには欠かせませんが、行政の力が必要です。大川の導水ができたこと、それはキーポイントで行政の力があつたからです。市長に是非お願いしたいのは、行政の力は地域の潜在力を見出して、地域の人々も行政の力を魅せられた時にそれに対して非常に大きな力を発揮してくれる。これは日本がずっとやってきたこと、昔、青年団が中心になって頑張ってた、それを周りからサポートする、それで日本の地域の活力はずっと維持してきた。地域作りが高度経済成長以降、会社型になって、崩れていきます。地域はガタガタになってしまっているの、学校、社会の負担が非常に大きくなってくる。しかし、ここに来るのは、楽しみです。経験者の人たち、ここにずっと住んでいた人たちと新しいタイプの若い力が上手にブレンドできる。その主役となっているのが、子供たちです。ですから、次世代型となっています。美崎の自治会館、ずっと長くやってきたのは大変だったと思いますが、その結果、今があるのです。もう少し、頑張りましょう。次の世代に繋げられる様にしましょう。大変ですが、新しいステージが見えてきてるので、頑張りましょう。
濱野くん	永尾さんがおっしゃっていたように、今、子供が140名、仮に全員一人っ子だったとしたら、親は280人くらいいる計算になります。280席あっても、埋めようと思えば埋まります。子供が楽しければ、親子で楽しめるという視点が、私達学生は全く無かったです。今聞いて、なるほどと思って、取り入れたいと思いましたが、子供たちが楽しむ・子供たちにとって学びになる取り組みについては、私達は親御さんの意見が無いと全く分からないので、こういう場に親御さんにも来てもらいたいです。
高山	時間になりましたので、終わりたいと思います。ありがとうございました。

卷末資料

守山市環境学習都市宣言

平成29年10月23日宣言

私たちが暮らす守山は、琵琶湖と野洲川の恵みに支えられ、美しい田園風景の広がる自然豊かなまちです。

私たち守山市民は、今日まで、「せっけん運動」をはじめ、全国に先駆けてのごみの分別、ホタルが住まう水辺環境、野洲川いかだくだりに長年取り組んできました。

さらに、地球市民の森の100年の森づくり、赤野井湾の外来植物の市民の手による駆除活動、自転車で移動しやすいまちづくりなどに取り組んでいます。

この恵まれた環境を未来へつなぐとともに、自然を大切にする子どもたちが育つまちを創りつづけるため、ここに守山市民が共に学び、考え、行動する『環境学習都市』を宣言します。

- 1 わたくしたちは、ホタルが飛び交う水辺や森づくりを通して、
自然を大切にする心を育みます。
- 1 わたくしたちは、ごみの分別や減量化を通して、
資源の活用と環境意識の向上を図ります。
- 1 わたくしたちは、豊かな琵琶湖の恵みを通して、
琵琶湖の大切さを学び、琵琶湖を守るために行動します。
- 1 わたくしたちは、地球環境と自然を守る暮らしを通して、
エネルギーを大切に、持続可能な社会を築きます。
- 1 わたくしたちは、環境学習を通して、人と人がつながり、
環境や自然に関心を持ち、その大切さを共有します。

夏休み大川自由研究室

「みさきの里(さと)」のしぜんと生活(せいかつ)



平成29年(2017年)8月2日

目 次

資料編

おお川とその周辺	P1
2 みさきのれきし	P2
3 びわ湖のさかなたち	P3
4 魚をとるしかけのいろいろ	P4
5 みさきの夏やさい	P5

解説編

【びわ湖と生活】	P6
○ びわ湖		
○ びわ湖のさかなたち		
○ 魚をとるしかけのいろいろ		
【大川の歴史と生きものたち】	P7
○ 大川の歴史		
○ 昔の大川		
○ 大川のさかなたち		
【美崎の歴史】	P8
○ 美崎の歴史		
○ 美崎の大地		
○ 美崎で栽培される野菜		

資料

大川とその周辺



資料

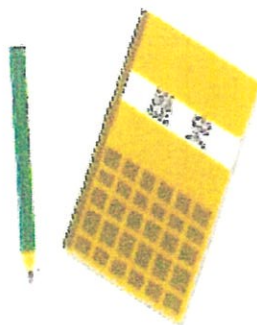
みさきのれきし

みさきは、今から170～180年前に開拓(かいたく)されました。

さいしょにうつり住んだのは、「いせ(今のみえ県)」や「おわり(今のあいち県)」、そして「みのう(今のぎふ県)」の人びとでした。

人びとは、やす川がはこんだ栄養分(えいようぶん)が豊富(ほうふ)な土壌(どじょう)で農業(のうぎょう)をいとなみ、またおお川やびわ湖の豊かな魚を採取(さいしゅ)して生活をささえながら、この地をひらきました。

一方(いっぽう)で、毎年(まいとし)のようにおお川やしん川(やす川の支流(しりゅう)でもっとも下流(かりゅう)になります)の洪水(こうずい)に苦しめられた歴史(れきし)もありました。



資料

びわ湖のさかなたち



こい(鯉)



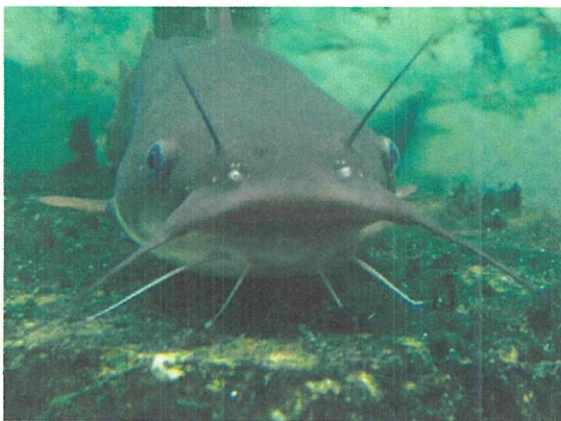
ふな(鯰)



あゆ(鮎)



もろこ



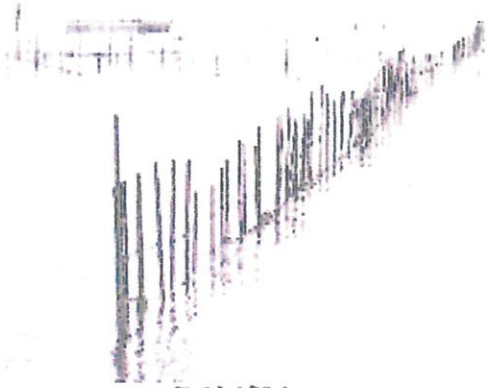
ナマズ



ハス

資料

魚を取るしかけのいろいろ



えり(餌)



とあみ(投網)



もんどり



さし網(あみ)

資料

みさきの夏やさい



メロン



大根



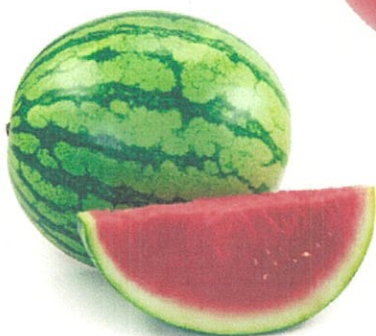
なす



きゅうり



トマト



すいか



ほうれん草

解説

【びわ湖と生活】

○ びわ湖

びわ湖は滋賀県の面積の6分の1を占める日本最大の湖です。びわ湖は、約400万年～600万年前に今の三重県伊賀市に地殻変動で成立し、次第に北に移動し約100万から40万年前に今の位置にいたつたとされます。

びわ湖は、古くは都(京都)に近い淡水の湖として近淡海(ちかつあわうみ、あるいは単に淡海)と呼ばれていましたが、測量技術が発達した江戸時代中期以降は楽器の琵琶に形が似ていることから琵琶湖という呼び名が定着します。

○ びわ湖のさかなたち

大きくて多様な環境があるびわ湖は生物の宝庫で、生息する植物は1000種を超えますが、びわ湖にしかない固有種は魚類や低生生物で500種以上とされます。

魚類の代表的な固有種には、ビワコオオナマズ、イワトコナマズ、ホンモロコ、ビワヒガイ、アブラヒガイ、ハス、ワタカ、イサザなどがあげられます。

また、固有亜種としては、ビワマス、ニゴロブナがあげられます。

一方、外来種としてはオオクチバス、コクチバス、ブルーギル、カムルチー(ライギョ)、レンギョがあげられます。

○ 魚をとるしかけのいろいろ

古くから漁業が発達しているビワコや周辺の河川にはさまざまな漁法があります。特に「えり」はびわ湖の伝統漁法として有名です。

・ えり(魷)

低地網と一緒に、湖岸から沖合に網(古くは竹を利用)を設置し、魚を誘導しながら「ツボ」と呼ばれる所で採捕する漁法。

・ さしあみ

・ たつべ、もんどり、うえ

・ 投網

・ 竹筒

解説

【大川の歴史といきものたち】

○ 大川の歴史

野洲川は鈴鹿山脈系に源を発する県内有数の大きな川で、かつてはたびたび洪水被害が発生する暴れ川として「近江太郎」とも呼ばれました。1979年にはそれまで守山市新庄町付近で南流と北流に分かれていた野洲川の間接地に新たな放水路が開かれ、以降流域住民は大きな安心・安全を得ることができました。

その野洲川南流の最下流に位置するのが美崎ですが、野洲川南流は美崎の地でさらに大川と新川に分かれています。

○ 大川と生活

美崎の中心に位置する大川は野洲川放水路が完成して以降、水の交換がない沼のような水域になりかしたが、それ以前は大川を中心に生活が営まれているといっても過言ではないほど関わりの深い存在でした。

特に大川の洪水は深刻で、毎年のように苦しめられました。

一方で、子ども達の水遊び、ハスの投網漁、夏の夜の灯(とぼし)漁、増水時のアミノ(アメノウオ、ビワマスのこと)漁、河原での宴会などなど楽しい思い出がある恵の川でもありました。

○ 大川の魚たち

かつての大川は、細かな砂の河原に澄みきった水が流れる存在でした。魚の種類も多く、一歩水に入ると足の下に魚がもぐり込み、こそばくむずむずとした感覚を今も多くの人が懐かしく思い出します。

その頃、大川で見られた魚は、ごり、ハス、オイカワ、鮎、ギギ、ナツメウナギ、手長エビ、ぼて(タナゴ)などで、今とは大きくことなります。

解説

【美崎の歴史】

○ 美崎の歴史

美崎の地は江戸時代末期の文政年間(1818年～1829年)に拓かれました。当時幕府は「町民請負新田」制度を設け、裕福な町民を活用して新田開発を進めていましたが、美崎の地は江戸の大富豪大久保今助により開拓されました。このため当時は「大久保新田」とも「今助新田」とも呼ばれました。

初期にこの地に移り住んだ人々は、天保9年(1838年)に阿弥陀堂を建設したとの記録があります。この阿弥陀堂の創建がコミュニティの成立としますと、美崎は平成27年(2015年)には177年の歴史を刻んだといえます。

なお、初期にこの地に入植したのは伊勢、尾張、美濃の出身の人でした。

○ 美崎の大地

美崎は野洲川が運んだ肥沃な土壌に恵まれていることや、京都などの都市近郊に位置すること畑作が盛んな地域です。

特に、大根や葉物野菜は古くから栽培されていますが、最近はメロンが有名です

○ 美崎で栽培される野菜

- ・メロン
- ・大根
- ・小松葉
- ・ほうれん草
- ・きくな
- ・なす
- ・きゅうり
- ・すいか



M I S A K I

無患子(むくろじ)



木



たね(種子)

【守山市内で美崎だけに自生している木】

夏休み大川自由研究室レポート

地域振興・交通政策課

- ・平成 29 年 8 月 2 日(水) 8:30～15:00
- ・美崎自治会館、大川ウッドデッキほか
- ・参加人数 計 人
(1・2 年生 人、3・4 年生 人、5・6 年生 人)



00 受付

8:00 より受付開始し、学年ごとに受付。自治会のお母さん達が受け付けを担当してくださいました。自治会がデザインし、環境政策課が作成した缶バッジを配布。子ども達に好評でした。子ども達が集合したところで、全員で記念写真を撮影しました。



立命館大学 haconiwa の学生ら 3 名が学年別に体験内容について説明し、子ども達を誘導しました。



01 体験活動

学年ごとに 3 グループに別れ、体験活動を実施しました。

- ・びわ湖での漁業体験(小学 5・6 年生)
- ・大川を屋形船で探検・ウッドデッキで環境調査(小学 3・4 年生)
- ・夏野菜の収穫体験(小学 1・2 年生)

大川を屋形船で探検・ウッドデッキで環境調査(小学 3・4 年生)

自治会館近くより屋形船に乗り、大川ウッドデッキに向かいました。子ども達からは、「水が汚れている」「水が濁っている」などの声がありました。



立命館守山高校の学生から、琵琶湖の水質やプランクトンの働きについてお話をしてもらい、顕微鏡で微生物を観察しました。その後、ウッドデッキから大川の取水を行い、水質調査を実施しました。



02 昼食

昼食前に、竹で作った水鉄砲で水遊び・魚つかみ体験をしました。





夏野菜の収穫体験(小学 1・2 年生)

小学 1・2 年生は、なすび・ピーマン・トマトなど夏野菜の収穫を体験しました。



03「アジアの文化を知ろう教室」

京都大学安藤教授からブータンの生活・文化について説明がありました。ブータンから4名来ていただきました。ブータンのあいさつ、歌とダンスを教えてください全員で挑戦。代表の児童が、ブータンの民族衣装を着付けてもらいました。伝統的なとうもろこしのおやつ、そばなどの食事体験もしました。



04 感想まとめ

体験ごとのグループに別れて、今日のどのような体験をしたか、印象に残ったことをまとめてもらいました。また、10年後の琵琶湖がどうなっていて欲しいか考えてもらいました。数人の子供達に、前に出て発表してもらいました。

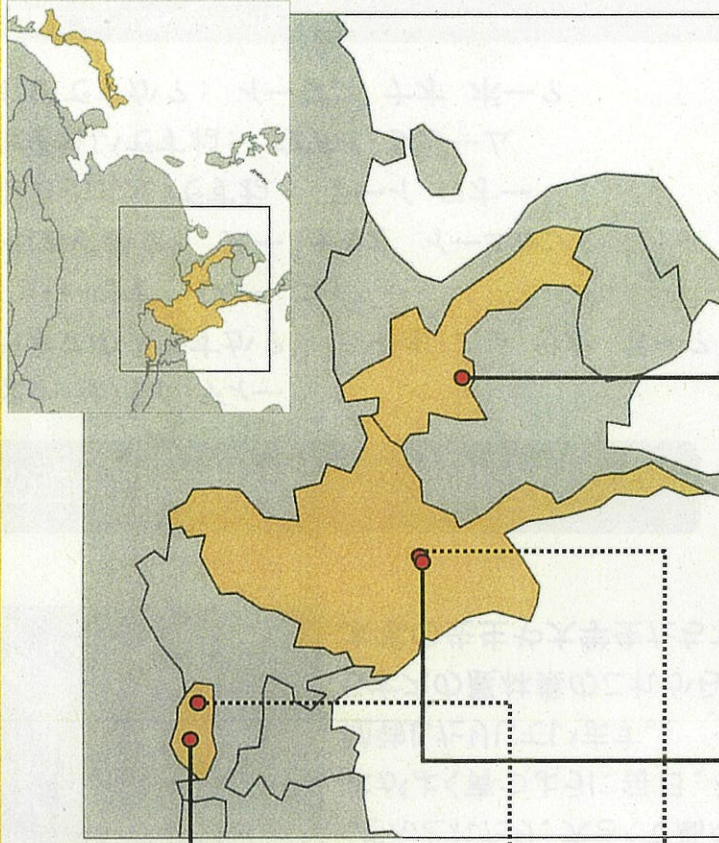


お兄さん・お姉さんたちの大学

ブータン王立大学シエラブツェカレッジ



おつりつだいがく しぜんしげん
ブータン王立大学自然資源カレッジ



はた 国の旗



ブータン



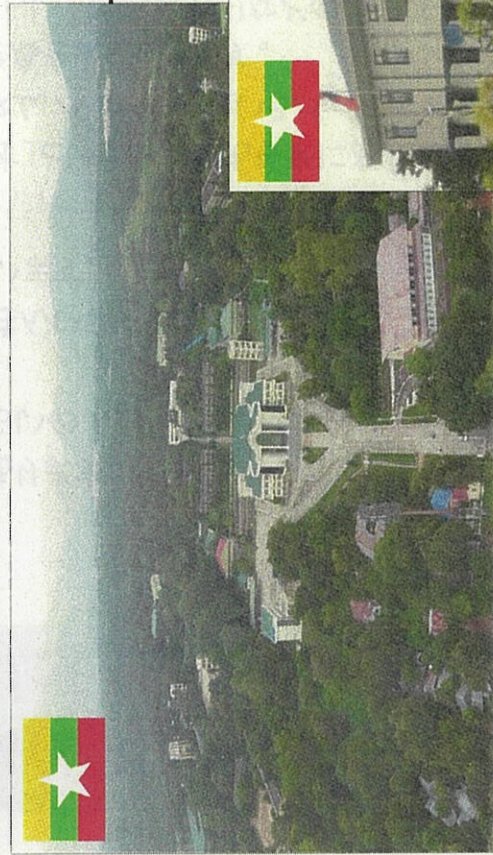
ミャンマー



ラオス



おつりつだいがく



のうぎようだいがく
イェジン農業大学

りんぎようだいがく
林業大学



こくりつだいがく
ラオス国立大学



今日来ているお兄さん・お姉さんはどんな人？ (ブータンの人たち)

ブータンって？

ブータンは日本から西に飛行機で10時間ぐらいのところにあります。九州と同じぐらいの大きさの国に、滋賀県の半分ぐらい(約70万人)の人が暮らしています。国のほとんどが山におおわれ、高い山は富士山の倍以上あります。ブータンにはいろいろな人が住んでいるので多くのブータンの人は3~4つのちがうことばが話せます。また、ブータンの多くの人が仏教(ぶっきょう)を信じています。



エマ・ダツィ

ブータンの人は辛いトウガラシが大好きです。一番有名はたべものはトウガラシをたっぷり使ったエマ・ダツィという料理です。とても辛いのでブータンの人はおかずといっしょにたくさんの白ごはんを食べます。ブータンでは多くの人が畑をたがやしたり、ウシをそだてたりして生活しています。また、ブータンは国の7割が森でおおわれています。暑いところや寒いところがあるので、いろいろな種類の植物や動物を見ることができます。

お兄さんやお姉さんはブータンで何してるんだろう？

ブータンの王様は、お金も大切だけど、人々の心が幸せな国を作ろうとブータンの人たちに言いました。お兄さんやお姉さんたちはブータンがそのような国になるよう、毎日頑張って勉強したり、研究したりしています。でも、もちろん友達とスポーツをしたり、遊んだりするのも大好きです。



ブータンのことばで話しかけてみよう!(ゾンカ語)

こんにちは: クズ ザンポー ラ
 あなたはどこから来ましたか?: チェ ガテ レ モ?
 お元気ですか?: チェ ガデベ ユエ? 元気です: ユエ ラ
 私の名前は〇〇です: ニギ ミン 〇〇
 お名前は何ですか?: チェギ ミン ガチ モ?
 写真とってもいいですか?: パル タブ トゥブ ガ?
 ありがとうございます: カディンチェー ラ



今日来ているお兄さん・お姉さんはどんな人？ (ラオスの人たち)

ラオスって？

ラオスは日本から南に飛行機で7時間ぐらいのところにあります。
日本の60%ぐらいの国土(約24万km²)に、滋賀県の5倍ぐらいの人が
(約690万人)暮らしています。

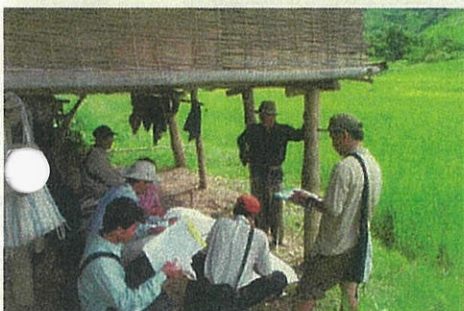
国民の多くがラーオ族、ほかに少数民族の人たちがたくさんいます。
国民の6割が上座部仏教(ぶっきょう)という宗教を信じています。



ふだん、「カーオ ニアオ」という日本のもち米にあたるお米をよく
食べています。また、「タム バホーン」というパパイヤのあえもの、
「ガイ ヤーン」という焼き鳥をよく食べます。

ラオスでは大人の7割ぐらいが、お米作りなどの農業をしています。
また、日本と同じように国土の6~7割が森林で、特定の種類の木を
植えた「人工林」や自然の森である「天然林」が広くあります。

お兄さんやお姉さんはラオスで何してるんだらう？



ラオスで、安くておいしい食べ物がた
くさんとれたり、大きくて高く売れる
木がよく育つように毎日、研究したり、
勉強したりしています。

ラオスの農林業のこれからを担う
大学の先生や大学生たちです。



ラオスのことばで話しかけてみよう!

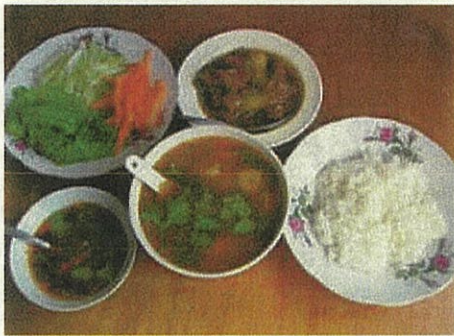
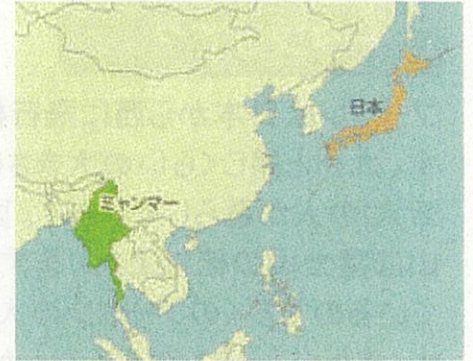
こんにちは: サバイ ディー
あなたはラオスの人ですか?: チャオ コン ラオ ボー?
私の名前は...です: スー コイ ...
お名前は何ですか?: スー チャオ イーニャン?
お兄さんはカッコいいですね: アーイ ロオー
お姉さんはきれいですね: ウアイ ンガーム
日本はさむいですか?: イーブン ナオ ボー?



今日来ているお兄さん・お姉さんはどんな人？ (ミャンマーの人たち)

ミャンマーって？

ミャンマーは日本から南に飛行機で8時間ぐらいのところにあります。日本の倍ぐらいの国土(68万km²)に、日本の半分ぐらいの人たちが(約5,300万人)暮らしています。国民の約7割がビルマ族、ほかに多くの少数民族の人たちがいます。国民の9割が上座部仏教(ぶっきょう)という宗教を信じています。



ふだん、「インディカ米」という日本のお米よりも細長いお米を、よく食べています。また、「ヒン」という日本のものよりも汁状のカレーをよく食べます。だから、ミャンマーでは大人の半分ぐらいが、お米作りなどの農業をしています。また、山では林業もさかんで、とくに「チーク」という木は、世界中に知られています。

お兄さんやお姉さんはミャンマーで何してるんだろう？



ミャンマーで、安くておいしい食べ物がたくさんとれたり、大きくて高く売れる木がよく育つように毎日、研究したり、勉強したりしています。ミャンマーの農林業のこれからを担う大学生や大学の先生たちです。



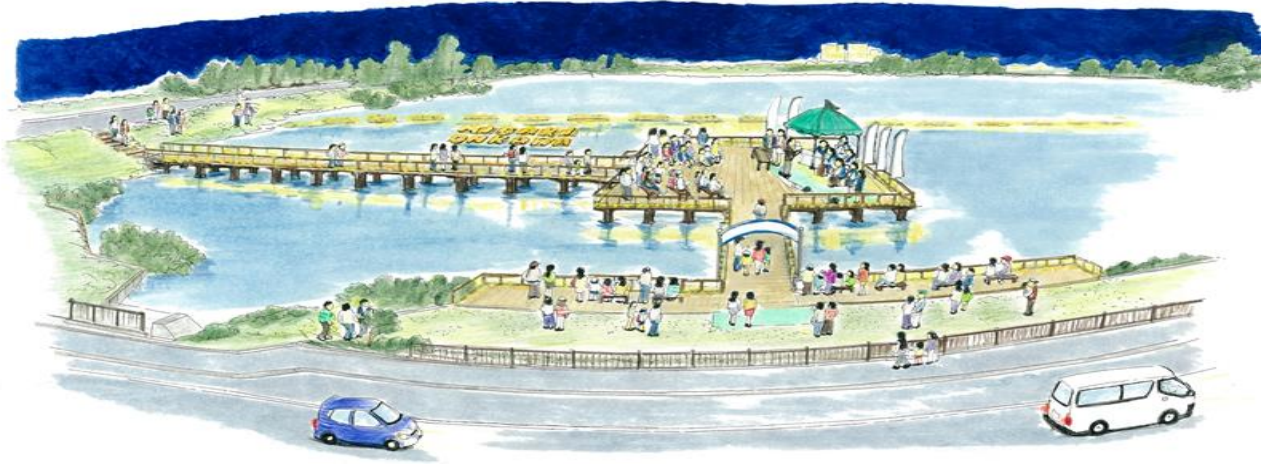
ミャンマーのことばで話しかけてみよう!

こんにちは： ミンガラバー
 お会いできてうれしいです： トウエ ヤーダー ワンターバーデー
 お元気ですか？： ネーカウンイエラー？
 私/僕の名前は…です： チャマア/チャノオ イェ ナーメー … バー
 お名前は何ですか？： ナーメー バーレー
 ありがとうございます： チェイズー ティンバーデー
 またお会いしましょう： ナウツマー トエ チャーデー ターボ



大川ウッドデッキ完成記念イベント

子ども達の夢や願いをこめた 竹灯籠を水辺に浮かべます!!



春の宵をお楽しみください!

2017/04/22(土)

16:00-20:00

守山市今浜町美崎/大川河口部
(ラフォーレ琵琶湖の西隣)

琵琶湖のほとりに
ウッドデッキが完成
(*^▽^*)!!

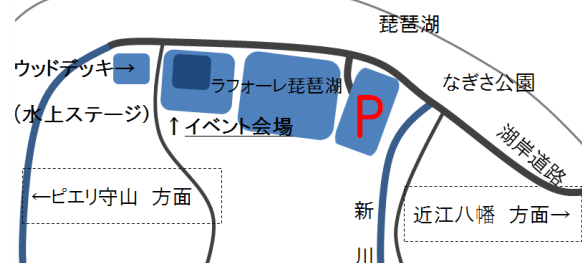
- ① 16:00～ 地元手作りのイベント
(音楽演奏会・模擬店・展示コーナー)
- ② 18:30～ 完成記念セレモニー
(琴と尺八演奏、
竹灯籠の点灯・夜景の演出)

天候状況等により行事内容を変更する場合があります。

会場周辺 MAP (駐車場は美崎公園駐車場へ)

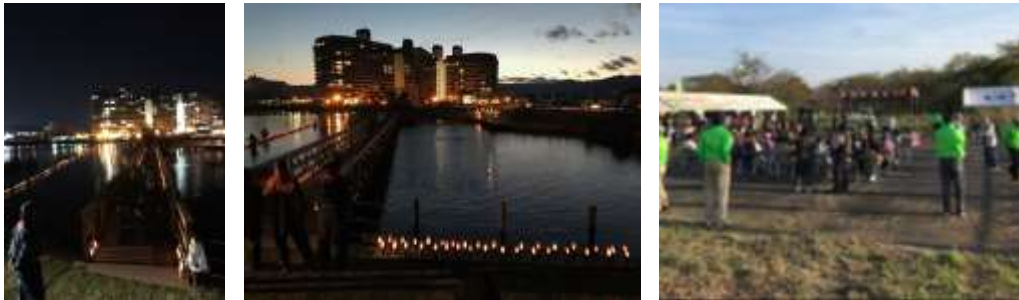


行事主催者 | 大川プロジェクト、美崎自治会、立命館大学学生生活動団体
haconiwa、守山湖岸振興会、速野学区まるごと活性化(北の玄関おもてなしプロ
ジェクト)、守山市職員有志、守山市
行事協力 | びわ湖守山・自転車新文化推進協議会、もりやま食のまちづくり
プロジェクト
お問い合わせ | 守山市役所 総合政策部 地域振興・交通政策課 (TEL582-1165)



大川親水デッキ完成記念イベント実施報告(共催事業)

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 1 開催日時 | 平成 29 年4月 22 日(土) 午後4時 00 分～午後8時30分 |
| 2 開催場所 | 守山市今浜町美崎地先 準用河川大川河口部 |
| 3 参加者 | ≒300 名 |
| 4 内 容 | 完成記念セレモニー、竹灯籠、ステージプログラム、出店展示企画 |



セレモニー・竹灯籠点灯、ステージプログラム会場



守山湖岸振興会 出店運営管理、開場整備(除草作業・前々日)

「大川親水デッキ」について

大川親水デッキは、風光明媚な自然景観を背景に、周辺には菜の花畑で人気ある「なぎさ公園」はじめ、「美崎公園」、「地球市民の森」へと続く大川河口部に位置し、水辺探訪の拠点として周囲と一帯となって機能することを目的に建設されました。

地元では、地域住民が学究機関や守山市とともに地域づくりを実践する「大川活用プロジェクト」が展開され、この親水デッキも、地域全域オープンミュージアム構想の中、環境学習など多目的に使用するよう建設中から利活用のアイデアが交わされています。

事業名 平成27年度～平成28年度 準用河川大川水辺環境整備事業

設置場所 守山市今浜町美崎 準用河川大川河口部

総延長 約70.0m(河川区間延長)、歩道幅員W=2.0m、中央デッキ約10.0m×8.0m、ホートのりば×2

総工事費 約1億2千万円(含周辺緑地約1,000㎡整備費)、構造 木道 再生木材

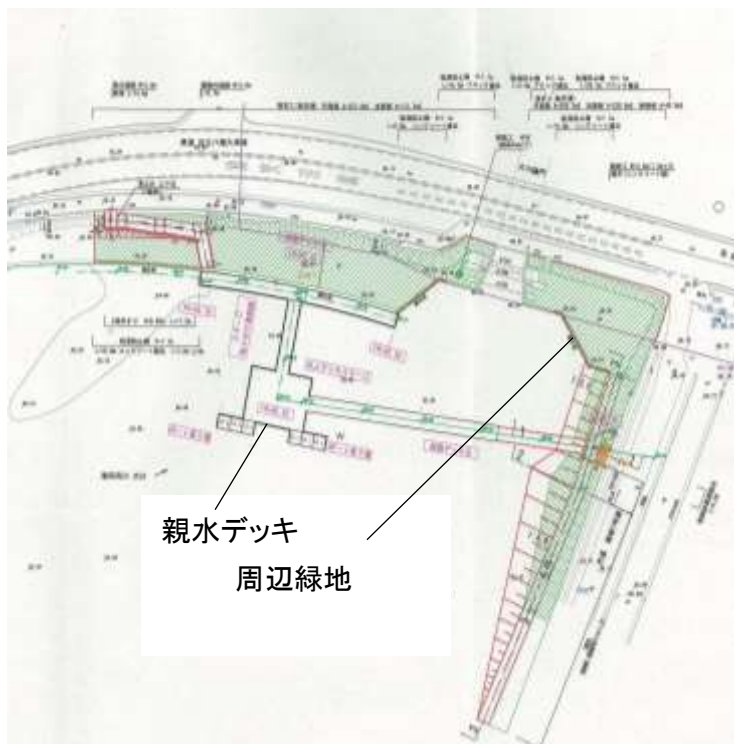


守山市今浜町美崎周辺図(「大川活用プロジェクト」)

周辺俯瞰写真



平面図



完成写真



定員
50名

冬休み自由研究室

～ウッドデッキから眺める冬の輝く夜空～

日程 12月26日(火)

プラネタリウム入館料 【子供】300円 【大人】500円
持ち物 書道セット 冬休みの宿題 色鉛筆 筆記用具
【スケジュール】

1部

13:00～15:00 書道 冬休みの宿題
15:00～16:30 作って遊ぼう！
かるた&福笑い
16:30～17:00 星座解説講座
17:00～17:30 夕食

2部

《バスで滋賀マリオットホテルに移動》
18:00～18:45 プラネタリウム鑑賞
19:00～19:20 ウッドデッキで星空
観察会
《バスで美崎自治会館に移動》
19:30 解散

星のお兄さんの 爆笑星座解説

滋賀マリオットホテル
のプラネタリウムで星
を見てみよう。星のお
兄さんの解説で爆笑
間違いなし！



星空観察会

ウッドデッキから星空
を眺めてみよう！天
体望遠鏡を使って星
や月の観察ができる
よ。今年最後の最高
の思い出を一緒につ
くりませんか？



新春書初め& 冬休みの宿題

家でやると片づけが
大変！家だとだらけ
てしまう。そんな子に
おすすめ！書初めも
しくは冬休みの宿題
のサポートをいたし
ます。

かるた作り& 福笑い

自作のかるたで遊ぼ
う！今年あったことを
振り返りながらカルタ
を作ってみよう！福笑
いでは、今年最後の
笑いおさめ！



- ◆ 別紙の参加申し込み書で申し込んでください。
- ◆ 悪天候の場合、2部ではプラネタリウムのみの実施となります。
- ◆ 小学校2年生以下の参加者は保護者同伴でお願いします。
- ◆ 夜は冷え込むため、温かい服装でお越しください。

主催

- ・美崎自治会
- ・こども食堂つくし
- ・haconywa
(立命館大学 学生団体)

「美崎寄り合い」開催記録
(2017年5月～2018年1月)

- 5月 夏休み大川自由研究室の開催内容、新川河畔林の整備、平成29年度の取り組みについて(21人)
- 6月 自由研究室の規格協議
- 7月 実施体制の確認協議
- 9月 アジア青少年交流事業、新川河畔林の整備について(17人)
- 10月 アジア青少年交流事業、年度内取り組み計画について(20人)
- 11月 大川デッキの利活用等、新川河畔林の整備、大川活用プロジェクトの今後について(16人)
- 12月 「冬休み自由研究室」、大川フォーラム、新川の整備について(20人)
- 1月 大川フォーラム、新川の整備、30年度からの取り組みについて(17人)

()内は会議参加人数

第7回(平成29年度)「大川フォーラム」プログラム 平成30年2月3日(土)

テーマ ～美崎・大川を舞台にもう一つの地方創生を考える～

13:30 開会・挨拶 美崎自治会長 伊藤健一

13:35 「守山市環境学習市宣言」唱和

13:40 報告会…第Ⅰ部

(1) 平成29年度の取り組み報告 大川活用プロジェクト

「夏休み大川自由研究室」&「アジア青少年等交流事業記念植樹」

資料

- ① 夏休み大川自由研究室
- ② 夏休み大川自由研究室レポート
- ③ 東南アジア研究生との交流事業
- ④ 「大川親水デッキ」完成記念イベント
- ⑤ 「大川親水デッキ」完成記念イベント実施報告(共催事業)
- ⑥ 「大川親水デッキ」について
- ⑦ 「冬休み自由研究室」・学習支援活動

(2) 大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa 活動成果発表

(3) 大川水質浄化事業について(環境政策課)

15:00～ 10分程度休憩

15:10 討論会…第Ⅱ部

宮本市長挨拶

地方創生事業の取り組み

自転車「ピワイチ」他

湖岸地域の動向

「守山まるごと活性化プラン」の展開状況

進捗・次期プランへの誘導

話題提供 「美崎・大川を舞台に次世代型地方創生にチャレンジ」

- haconiwa からの提案(資料⑧)

(コメンター)

守山市長 宮本 和宏

速野小学校校長 大西先生

市民交流センター 所長 広実照美

美崎子供会(代表) 長尾 秀幸

立命館大学学生生活動団体 haconiwa 代表 戸簾 隼人

(コーディネーター)

京都大学東南アジア地域研究研究所 安藤 和雄

16:00 閉会

大川だより



2017年(平成29年)5月19日 発行

[第8号]

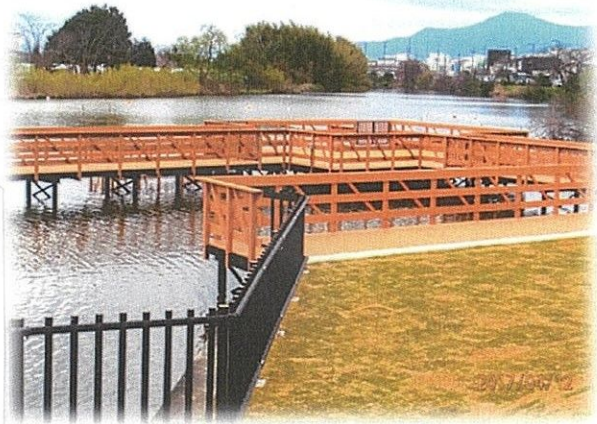
発行: 大川活用プロジェクト

責任者: 世話人 伊藤 潔

“大川親水デッキ竣工記念”

大川親水デッキ竣工イベント と竹灯籠の夕べ

去る、4月22日(土)午後「大川親水デッキ竣工イベントと竹灯籠の夕べ」が行われ、300人あまりの方が参加され、竹灯籠の夕べや琴・尺八などの演奏を楽しんでいただきました。この「親水デッキ」が、皆さんに活用し、親しんでいただける場となるよう願っております。その内容を写真で紹介します。



大川親水デッキ

大川親水デッキのテープカット



左から「武村衆議院議員」・「桑原立命館大学生」・「宮本市長」・「伊藤自治会長」・「遠藤湖岸振興会会長」・「高田市議会議長」

主旨説明



haconiwaを代表して桑原さんが、7年前から大川にかかわってきた熱い思いを...

市長挨拶



川面に輝く竹灯籠



デッキの竹灯籠



デッキを照らす竹灯籠

川面には400個、デッキには300個の竹灯籠が設置された

琴と尺八の演奏

琴: 江森さんと梅本さん、尺八が藤森さんお二人と山田さん



思い出と今
そして
夢・希望

ビワイチの拠点、地球市民の森との一体化が期待できる市民憩いの場である

大川の取り組みの特色とは！！
～イベント開催までの振り返り～

大川活用プロジェクト
世話人 伊藤 潔

「竹灯籠のタベ」は、大川の水上に浮かべた竹灯籠に火を灯し、水面と織りなす光景を楽しむ新たな試みであり、大きな関心を集めました。

この発想は立命館守山高校出身者の皆さんからはじまりました。当日は、湖岸振興会(湖岸に立地する企業の皆さんの会)や地元有志の皆さん(美崎自治会の女性グループや琴と尺八の愛好会の皆さん・江州音頭保存会の皆さんなど)がそれぞれ、出店や演奏等に工夫を凝らしながら展開されました。

そして、竹灯籠は「速野幼稚園」と「ひなぎく保育園」の子ども達と、女性グループの皆さんに、絵付けや、夢・願いを描いていただいております。

大川活用プロジェクトは、平成22年から地域そのものがオープンミュージアムとなるよう、親水デッキはもとより、夏休み自由研究室など、地域活動の中で子どもさん向けの取り組みの展開など、地域の皆さまの知識や経験に支えられ実践されています。

今回も、平素より地域のためにご尽力をいただいております皆さま、イベントに訪れていただいた皆さまのご参加とご協力があり、実現し無事開催することができました。

大川の最大の課題である水質改善については、昨年より河口部での水質浄化事業、さらに、きれいな水を注入する新たな事業も始まり、効果が期待されます。

『大川寄り合い』について

原則毎週第4水曜日の午後7時から美崎自治会館で行なっております。多くの方のご参加をお待ちしております。開催日については、変更がある場合がありますので、「広報みさき」をご覧ください。

大川デッキ竣工イベント(大川フェス)

元気な子どもたちによる太鼓の演奏



「よし笛」の演奏



「ほつとらいん」の二人



テントには沢山の屋台が出店

江州音頭



守山江州音頭保存会

着々と進む「新川整備事業」

大川整備(環境)事業と並行して、新川に対する活用(整備)を進めています。とりわけ、邪魔者として扱われてきた竹藪を昨年に伐採しました。その竹を使用した竹回廊や子どもの遊び場等への活用も進めています。皆さんの思いや考えを含めて進めてまいりたいと思っています。



美しく整地された新川

【編集後記】

今から約50年以上前の大川を思い出す●学年も関係なく川原でソフトボールをしたり、魚釣りをした。その時の川の水は澄んでおり、色んな魚が子どもでも捕まえることができたし、蛍も乱舞していた●私には、大きな思い出がある。それは、小学生の時に木で出来た大川橋から川へ2回も落ちたことである。1回目は、自転車を手放して橋を渡った時。2回目は、目をふさいで橋を渡った時である。橋から川面まで5mはあったと思うが、怪我はしなかつたが、母親から強く怒られた記憶がある●今振り返れば、それも懐かしい思い出である。そんな古き時代があった事をこのイベントを通じて思い出した。そして、美しく変貌していく大川が楽しみだ。感謝。(野)

編集後記

皆様のご協力により、今年も平成 29 年度の大川活用プロジェクト活動報告書をお届けすることができました。ありがとうございました。

世話人の伊藤潔さんが巻頭に述べられているように、大川活用プロジェクトの平成 29 年度の活動の特徴は、立命館大学の学生の皆さんの自主的な大川活用プロジェクト支援団体である hakoniwa の活発な参加です。そして、それに呼応するように、美崎の子供会の若いお父さん、お母さん方の積極的な活動への参加です。大川活用プロジェクトの始まりはたしかに大川の水質環境改善からです。しかし、私たち京都大学東南アジア地域研究研究所が参加するようになった平成 23 年に、水質環境改善に加えて広義の大川の活用、美崎地域の地域活性はどこに目的を置くべきかについて話し合いが当時の自治会の皆さんともたれました。その時に確認されたのが、「子供たちのために」という共通の思いでした。それから 8 年がたち、水質環境改善活動から、夏休み大川自由研究室プログラムが定番プログラムとなり、徐々に、「子供たちのために」が事業として実体化していきます。そして、この思いが hakoniwa の皆さんの思いとつながり、子供会、自治会の後押しで、平成 29 年度の活動でいっきに拡大しました。大川活用プロジェクトのこうした活動の展開は、行政や NPO によってトップ・ダウン的に起きたのではなく、あくまで、現場の自発的、自立的な関係者の皆さんの内側からボトム・アップ的に起きてきたのです。子供たちが大川、美崎の地域に慣れ親しみ、「わたしの里、ぼくの里」としっかり心に焼き付けていくことが、大川の水質環境改善をはじめとした美崎の地域づくり、地域活性の真の成果となっていくことでしょう。地域で子供が育つ。地域が子供を育てる。少し前までは当たり前のことでしたが、現在、これは簡単なことでなくなってきました。私が誇らしいのは、大川活用プロジェクト、美崎自治会が、子供会をはじめとする住民の皆さん、hakoniwa の皆さん、市役所の皆さんとともに、協働することでそれを確実に実現しつつあることです。この活動を振り返りつつ支えるためにも毎年の活動記録を報告書として残していくことは大変重要となることでしょう。私たち編集者は、そのお手伝いを今年もできたことを嬉しく思っています。

最後になりましたが、第 7 回大川フォーラムでの発表者の皆さん、そして本報告書の執筆者の皆さん、美崎自治会、子供会をはじめとする住民の皆さん、hakoniwa の皆さん、市役所の関係者の皆さん、記して感謝いたします。また、この報告書を手にとられた皆さん、大川活用プロジェクトに今後とも関心を抱いていただき、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

安藤和雄 （編集者を代表して、2018 年 3 月 22 日記）



発行日 平成 29 年 3 月 31 日
発行 大川活用プロジェクト
滋賀県守山市今浜町 2761-35
電話 : 077-585-1019
メール : (守山市役所) miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp
編集 安藤和雄・内田晴夫
出版協力 京都大学 (グローバル生存基盤展開ユニット・東南アジア地域研究研究所、地 (知) の拠点事業 : KYOTO 未来創造拠点整備事業—社会変革期を担う人材育成、東南アジア地域研究研究所国際共同研究拠点事業「東南アジア大陸部稲作圏における農業近代化以降における技術展開の国際比較」)
守山市役所

ISBN978-4-906332-38-0